

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
633 その他の菌類病			
阿部秀夫・坪木和男・青田盾彦	1976	網走地方におけるジャガイモ黒あざ病について. 2. 発病個体の各部位から分離された <i>R. solani</i> の類別.	日植病報 42(1): 95.(講要)
阿部秀夫・坪木和男	1977	網走地方におけるジャガイモ黒あざ病について 4. 塊茎の菌核付着経過.	日植病報 43(1): 108.(講要)
阿部秀夫・坪木和男	1978	ジャガイモから分離される <i>Rhizoctonia solani</i> Kühnの菌糸融合群.	北海道立農試集報 40: 61-70.
赤井 純・土屋貞夫	1972	北海道十勝地方におけるジャガイモ菌核病の発生生態.	北日本病虫研報 23: 103.
赤井 純・土屋貞夫	1972	北海道十勝地方におけるジャガイモ菌核病の発生生態.	北日本病虫研報 23: 103.(短報)
青木孝之・佐藤豊三・澤田宏之・永井利郎・富岡啓介	2009	農業生物資源ジーンバンク(MAFF)に保存される <i>Fusarium solani</i> 菌株及び関連菌種の分子系統学的再評価.	日植病報 75(3): 238.(講要)
青森農試	1935	馬鈴薯夏疫病(輪紋病)豫防試験.	青森農試年報(昭和10).
青森農試	1936	馬鈴薯夏疫病(輪紋病)豫防試験.	青森農試年報(昭和11).
青森農試	1936	馬鈴薯黒瘧病豫防試験.	青森農試年報(昭和11).
青森農試	1937	馬鈴薯夏疫病(輪紋病)豫防試験.	病蟲雑 24(9): 698-699.
青田盾彦・坪木和男・阿部秀夫・岡田紘一・苜米池昭三	1976	網走地方におけるジャガイモ黒あざ病について 1. 病徴と発生生態.	日植病報 42(1): 95.(講要)
荒木隆男・坪木和男	1975	ジャガイモ乾腐病病原菌について.	日植病報 41(1): 123.(講要)
荒木隆男	1977	ジャガイモ乾腐病を起因する <i>Fusarium solani</i> の2分化型と <i>F. roseum</i> .	日植病報 43(3): 341.(講要)
荒木隆男・鬼木正臣・生越 明	1979	2株の <i>Rhizoctonia</i> 菌によるジャガイモ塊茎の亀の甲症状の発生.	日植病報 45(4): 530.(講要)
淺野重義・伊藤茂郎	1955	馬鈴薯粉状瘡痂病の発生調査概要.	日植病報 19(3・4): 174.(講要)
明日山秀文	1943	馬鈴薯の疫病, 瘡痂病, 黒瘧病と腐敗病.	農業の満州 15(4).
明日山秀文	1954	ジャガイモ粉状そうか病(powdery scab) 発見さる.	日植病報 19(1・2): 28.(講要)
明日山秀文	1954	ジャガイモ粉状そうか(瘡痂)病.	植防 8(12): 510-513.
馬場徹代	1981	テンサイ根腐病およびジャガイモ黒あざ病に関する研究.	北海道立農試報告 35: 1-74.
茶谷正孝・泉 省吾・松尾和敬・田淵尚一・小村国則	1988	水田裏作でのジャガイモ粉状そうか病抵抗性の品種間差異.	九州農業研究 51: 41.
海老原克介・上松清次・君島悦夫・森脇丈治	1999	ジャガイモ塊茎から分離された <i>Verticillium tricorpus</i> Isaac.	日植病報 65(3): 399.(講要)
遠藤 茂・兼平 勉	1974	イネ紋枯病菌ならびにジャガイモ黒あざ病菌のジャガイモおよびイネに対する病原性と病斑型について.	日植病報 40(2): 151.(講要)
江住和雄・佐藤 亮	1960	馬鈴薯黒瘧菌核による被害発生経過.	日植病報 25(5): 235.(講要)
江住和雄	1966	馬鈴薯銀痂病(<i>Spondylocladium atrovirens</i> Harz) とその防除法.	馬鈴薯原原種農場研報 4: 1-37.
福田 豊・牛木 純・近藤史・三木信雄・大石頭一・米村 信・内藤繁男	1999	ジャガイモ指斑病の発生に及ぼす使用済脱硫剤の影響.	日植病報 65(3): 353.(講要)
福士隆二	1957	PCNB剤による馬鈴薯黒瘧病の防除.	北日本農業研報 6: 63-64.(講要)
古市尚高・西村正暢	1984	<i>Alternaria solani</i> の宿主選択的毒性物質の単離およびその生理活性.	日植病報 50(1): 128.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
萩原良雄	1953	<i>Rhizopus nigricans</i> Ehr.の馬鈴薯に対する病原性について(豫報).	日植病報 17(3・4): 151-152. (講要)
橋本 保	1959	ジャガイモ黒痣病の第一次伝染源.	植防 13(10): 449-450.
橋本 保	1960	ジャガイモ黒あざ病菌の土壌中における垂直分布.	北日本病虫年報 11: 47. (講要)
樋浦 誠・黒田佐俊	1949	馬鈴薯白絹菌の発生機作に就て.	日植病報 13(3・4): 61. (講要)
北海道農試	1931	馬鈴薯黒痣病及萎縮病に就ての注意.	北海道農試時報 97: 1-14., 農友 23(5): 24-29.
本田雄一・曾田邦裕・野津幹雄	1987	An ultrastructural study of photo-induced conidiogenesis and dedifferentiation in <i>Alternaria solani</i> .	Bull. Fac. Agr. Shimane Univ. 21: 141-154.
Honda, Y., Nanba, N. and Nozu, M.	1990	A further study on ultrastructural aspects of photo-induced conidiogenesis and dedifferentiation in <i>Alternaria solani</i> .	Bull. Fac. Agr. Shimane Univ. 24: 39-46.
堀尾英弘・野口 健・田中 智	1978	ジャガイモ粉状そうか病菌の根毛感染について.	日植病報 44(1): 65. (講要)
堀尾英弘・野口 健・田中 智	1978	ジャガイモ粉状そうか病の病土検診について.	日植病報 44(3): 366. (講要)
堀尾英弘・田中 智	1979	ジャガイモ粉状そうか病菌の根毛感染に及ぼす温度, 土壌水分および日長の影響.	日植病報 45(1): 124-125. (講要)
堀尾英弘・野口 健・田中 智	1981	ジャガイモ粉状そうか病菌の根毛感染.	馬鈴しよ原原種農場研報 15: 1-32.
堀田治邦・谷井昭夫	1987	<i>Phytophthora erythroseptica</i> Pethybr. によるジャガイモ緋色腐敗病(新称).	日植病報 53(1): 77-78. (講要)
堀田治邦・谷井昭夫	1988	ジャガイモ, ナガイモ, ダイズより分離された <i>Pythium</i> 菌について.	日植病報 54(3): 349-350. (講要)
堀田治邦・谷井昭夫	1996	日本におけるジャガイモ緋色腐敗病の発生.	北海道立農試集報 71: 1-6.
星野健一・小池正徳・長尾英幸・大嶋聡子	1995	<i>Verticillium dahliae</i> と <i>V. albo-atrum</i> のリボゾームRNA遺伝子増幅産物のRFLP分析.	日植病報 61(3): 233. (講要)
星野好博	1949	馬鈴薯萎凋病に就いて.	日植病報 13(3・4): 3-6.
星野好博	1950	ブザリクム菌による馬鈴薯の病害.	日植病報 14(1・2): 42. (講要)
星野好博	1950	馬鈴薯萎凋病に就いて.	日植病報 14(3・4): 110. (講要)
一戸正勝・陶山一雄・浅田紀恵・根岸寛光・藤井 溥	1986	ジャガイモ乾腐病病原菌の菌名について.	日植病報 52(3): 519-520. (講要)
一戸正勝・陶山一雄	1987	ジャガイモ乾腐病の原因病と病原性.	植防 41(6): 260-264.
井口眞造	1955	馬鈴薯炭疽病菌の培養性質1, 2について.	北日本病虫年報 6: 62-64. (講要)
池上八郎	1983	植物糸状菌の防除 [1] (根こぶ病と粉状そうか病). (農学講座)	農及園 58(1): 65-70.
池谷美奈子	2002	ジャガイモ粉状そうか病に対するバレイショ品種の抵抗性の評価.	北日本病虫研報 53:95-98.
池谷美奈子・白井佳代	2009	<i>Alternaria alternata</i> (Fries) Keissler によるジャガイモ黒斑病の発生(新発生).	日植病報 75(1): 85. (講要)
池谷美奈子・藤田涼平・池谷 聡	2010	ジャガイモ褐色腐敗病に対するジャガイモ品種の抵抗性.	日植病報 76(1): 78. (講要)
池谷美奈子・三澤知央・小松 勉・池田幸子	2013	<i>Rhizoctonia solani</i> AG-2-2IVによるジャガイモ腰折症状の発生.	日植病報 79(1): 63-64. (講要)
井上 亨	1955	馬鈴薯粉状瘡痂病対策の経過概要について.	植防 9(11): 449-452.
石井正義・手塚信夫	1994	フジバカマ, カクトラノオ, ホトギス(新称)及びジャガイモの白絹病.	関西病虫研報 36: 79-80.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
岩切 嶙	1955	馬鈴薯粉状瘡痂病について.	農業技術研究 9(2): 34.
壽福和子・内藤繁男	2005	ジャガイモ黒あざ病菌の完全世代形成と担子胞子の発芽における培地の検討.	北日本病虫研報 56: 208. (講要)
角野晶大・田村 修・岩田康広・佐々木高行・西脇由恵	1993	北海道における <i>Verticillium dahliae</i> Klebahn によるジャガイモ半身萎凋病の発生について(予報).	日植病報 59(6): 767. (講要)
角野晶大	1995	北海道におけるジャガイモ半身萎ちよう病の発生状況と今後の研究課題.	植防 49(12): 500-505.
角野晶大	1998	ジャガイモ半身萎ちよう病の発生状況と栽培の留意点.	農家の友 50(6): 64-65.
Kasai, M.	1919	On the morphology and some cultural results of <i>Fusarium Solani</i> (Mart.) Appel et Wollenweber, an organism which causes dry rot in the Irish potato tubers.	Ber. Ohara Inst. Landw. Forsh. 1(5): 519-542.
木村伸司・柳田麒策	1976	ジャガイモ黒あざ病の茎の病勢進展について.	日植病報 42(1): 96. (講要)
喜多孝一・工藤和一	1984	ジャガイモの茎腐れを起す <i>Pythium</i> 菌.	九州病虫研報 30: 25-26.
北沢健治・柳田麒策	1980	ジャガイモ指斑病(仮称) ー予報.	日植病報 46(1): 103. (講要)
北沢健治・柳田麒策	1982	ジャガイモ指斑病の病原菌について(続報).	日植病報 48(1): 128. (講要)
北沢健治	1983	ジャガイモおよびアルファルファのバーティシリウム病.	植防 37(3): 100-105.
北沢健治・柳田麒策	1984	<i>Verticillium nigrescens</i> Pethybridge によるジャガイモの半身萎ちよう病.	日植病報 50(5): 641-642. (講要)
小池正徳	1993	<i>Verticillium albo-atrum</i> に対するジャガイモの植物体および細胞レベルにおける抵抗性反応.	帯大後援会報告(平成4年度) 21: 31-33.
小池正徳・藤田光輝・長尾英幸・大嶋聡子	1995	RAPD法による <i>Verticillium dahliae</i> と <i>V. albo-atrum</i> の国内分離株の解析.	日植病報 61(3): 233. (講要)
駒田 亘・江塚昭典	1971	ジャガイモ煎汁培地の原料ジャガイモの新旧が <i>F. oxysporum</i> の発育に及ぼす影響.	日植病報 37(5): 385-386. (講要)
小松 勉・角野晶大・景山幸二・百町満朗	1999	北海道で分離された <i>Verticillium dahliae</i> の REP-PCR および RAPD 法による DNA フィンガープリント.	日植病報 65(3): 399. (講要)
近藤 史・牛木 純・上田実・福田 豊・大石頭一・内藤繁雄	1999	(7-4) 石膏はジャガイモ塊茎に発生する指斑病の発病を抑制する. (7. 土壤病害)	土肥要旨集 45: 69. (講要)
近藤 史・牛木 純・福田豊・上田 実・内藤繁男	2001	ジャガイモ指斑病の発生に及ぼすカルシウムおよびホウ素肥料の影響.	土肥誌 72(2): 230-236.
小山八十八・星野好博	1950	馬鈴薯萎凋病発病実態調査結果に就て.	日植病報 14(1・2): 39. (講要)
工藤和一	1957	馬鈴薯黒痣病発病経過の品種間差異.	北日本病虫年報 8: 51-53. (講要)
栗林数衛・市川久雄・宮川幸重・寺沢 租	1951	最近本県に発生した新病害に就て (1) 馬鈴薯炭痘病.	長野農試彙報 34: 1-4.
教育農藝編集部	1933	馬鈴薯の乾腐病(二月の病虫害).	教育農藝 2: 283.
教育農藝編集部	1933	馬鈴薯の黒痣病(二月の病虫害).	教育農藝 2: 285.
Langsdorf, G., Tsujimoto, T., Nishimura S. and Furuichi, N.	1987	Studies on <i>Alternaria solani</i> infection (I).	Ann. Phytopath. Soc. Japan 53 (3): 395. (abs.)
牧野孝宏	1993	病害虫防除情報 ージャガイモ黒あざ病の防除.	農業技術研究 47(1): 33.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
美濃健一・西脇由恵・相馬 潤・池谷美奈子・田中文夫	2009	北海道に於けるジャガイモ粉状そうか病の発生状況.	北農 76(1): 14-20.
水田隼人	1995	“5.黒あざ病”, “7.粉状そうか病”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.59-61., 64-65.
村山大記	1955	馬鈴薯粉状瘡痂病とその防除法.	農及園 30(7): 905-910.
永井政次・佐藤克己	1952	<i>Fusarium</i> による馬鈴薯の貯蔵中に於ける病害.	北日本病虫年報 3: 67-68. (講要)
長友 富・井阪実人	1956	福井県で発生した馬鈴薯乾性そうか病について.	日植病報 20(4): 182. (講要)
内藤繁男・国永史朗	1998	黒あざ病菌の担子胞子によるジャガイモ葉の感染.	日植病報 64(6): 580. (講要)
仲川晃生・井上康宏・越智 直・田谷有紀・植松芳彦	2014	納豆調製液によるジャガイモそうか病の種間伝染防止効果.	関東東山病虫研報 61: 31-34.
中山尊登・竹原利明・佐藤 剛・斎藤初雄	1999	ジャガイモ粉状そうか病の温室内抵抗性検定法.	日植病報 65(3): 395. (講要)
中山尊登・竹原利明・仲川晃生・斎藤初雄	2001	ジャガイモ粉状そうか病菌の根部感染における品種間差異.	日植病報 67(2): 185. (講要)
中山尊登・竹原利明・仲川晃生・島貫忠幸	2003	ジャガイモおよび非宿主植物の根部抽出物が粉状そうか病菌によるジャガイモ根部感染程度に及ぼす影響.	日植病報 69(1): 78. (講要)
中山尊登・島貫忠幸	2004	補足法を用いたジャガイモ粉状そうか病菌の土壌汚染程度の評価.	日植病報 70(1): 85-86. (講要)
中山尊登・島貫忠幸	2005	ジャガイモ粉状そうか病菌の休眠胞子発芽に及ぼすジャガイモ根浸出物ならびに根部抽出物の影響.	日植病報 71(1): 83-84. (講要)
中山尊登・島貫忠幸	2005	ジャガイモ根部より分離された細菌によるジャガイモ粉状そうか病菌の根部感染抑制.	日植病報 71(3): 285-286. (講要)
中山尊登・堀田光生	2006	ジャガイモ粉状そうか病菌の熱死滅時間について.	日植病報 72(1): 86-87. (講要)
Nakayama, T., Horita, M., and Shimanuki, T.	2007	<i>Spongospora subterranea</i> soil contamination and its relationship to severity of powdery scab on potatoes.	J. Gen. Plant Pathol. 73(4): 229-234.
中山尊登・堀田光生・佐山 充・眞岡哲夫	2007	熱処理がジャガイモ粉状そうか病菌の生存とジャガイモモップトップウイルスの感染に及ぼす影響.	北日本病虫研報 58: 188. (講要)
中山尊登	2008	ジャガイモ根部より分離した糸状菌によるジャガイモ粉状そうか病の発病抑制.	日植病報 74(3): 189. (講要)
中山尊登・村井 勝・眞岡哲夫	2009	加熱処理ならびにサイレージ発酵がジャガイモ粉状そうか病の生存に及ぼす影響.	日植病報 75(1): 88. (講要)
中山尊登・眞岡哲夫・津田昌吾・清水基滋・不破秀明・畑谷達児・森 元幸	2010	主要ジャガイモ品種におけるジャガイモ塊茎褐色輪紋病に対する抵抗性の品種間差異と粉状そうか病抵抗性との関係.	北日本病虫研報 61: 52-56.
中山尊登・村井 勝	2011	ジャガイモデンプン粕中に含まれるジャガイモ粉状そうか病の生存に及ぼすサイレージ発酵の影響 (第2報).	日植病報 77(1): 75. (講要)
中山尊登・佐山 充	2012	種々の植物の栽培が土壌中のジャガイモ粉状そうか病菌の感染ポテンシャルに及ぼす影響.	日植病報 78(1): 64. (講要)
中山尊登・村井 勝	2012	バレイショデンプン粕中に含まれるジャガイモ粉状そうか病菌の生存に及ぼすサイレージ発酵の影響.	北日本病虫研報 63: 46-51.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
中山尊登・加藤邦彦・眞岡哲夫・滝澤秀樹・佐々木仁・井上 京	2013	伏流式ヨシ濾床人工湿地処理によるバレイショ澱粉工場廃液中のジャガイモそうか病菌 <i>Streptomyces turgidiscabies</i> の菌密度変化.	北日本病虫研報 64: 40-45.
中山尊登	2014	ジャガイモ粉状そうか病菌の不活化によるジャガイモモップトップウイルス伝染環の遮断.	日植病報 80(4): 255.(講要)
成田武四・春貴紀男	1951	馬鈴薯の萎凋性病害に関する研究 (I) 凋萎性病害の種類とその區別點.	日植病報 15(2): 79-80.(講要)
成田武四・春貴紀男	1951	馬鈴薯の凋萎性病害に関する研究 (2) 美深地方に於ける所謂凋萎病の發生と気温並に降水との關係.	日植病報 15(2): 80.(講要)
成田武四	1952	馬鈴薯銀痂病並に馬鈴薯炭疽病に関する一知見.	北日本病虫年報 3: 67.(講要)
成田武四・宇井格生・竹内昭士郎・舟山 肇	1956	馬鈴薯粉状瘡痂病菌の寄主植物 (予報). (修正: 蒼→瘡)	日植病報 21(1): 34.(講要)
成田武四・宇井格生	1956	馬鈴薯粉状そうか病に関する調査(昭和30年度成績).	北生連資料 No.12: 1-26.
成田武四・舟山広治・宇井格生	1956	馬鈴薯粉状瘡痂病に関する調査(昭和30年度成績中間報告).	北海道農務部, p.1-26.
成田武四・宇井格生	1958	馬鈴薯粉状瘡痂病に関する研究 第1報.	北海道立農試集報 3: 25-41.
Negishi, H., Takigawa, Y. and Suyama, K.	1987	Studies on <i>Verticillium</i> sp. isolated from potato tuber surface.	J. Agric. Sci., Tokyo Univ. Agric. 31(3): 176-188.
新須利則・坂口 荘一	1969	ジャガイモ粉状そうか病に関する研究 第1報 ほ場における發生推移.	九州病虫研報 15: 51-52.
Nishimura, N. and Sugimoto, T.	1983	Hyphal anastomosis between the isolated belonging to AG2-2 of <i>Rhizoctonia solani</i> Kühn.	Res. Bull. Hokkaido Natl. Agric. Exp. Sta. 137: 73-80.
野口 健・堀尾英弘	1981	“Ⅲ ジャガイモ粉状そうか病に対するジャガイモ品種の抵抗性”, ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15: 65-70.
野口 健・鈴木誠三	1981	“Ⅴ ジャガイモ粉状そうか病耕種的方法による防除”, ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15: 86-95.
大橋義弘	1981	バレイショ粉状そうか病・そうか病の防除対策.	農業技術研究 35(10): 44-77.
大上大輔・岡田 貴	2011	赤皮のジャガイモ品種に發生した色抜け症状の原因について.	日植病報 77(1): 75.(講要)
大島喜四郎	1940	馬鈴薯夏疫病に対する硫酸銅粉剤の効果.	北農 7: 246-248.
大須賀隆司・岩瀬達郎・小林久俊・神谷義之・牧野孝宏	1992	静岡県西部地区におけるジャガイモ黒あざ病の發生実態.	関東東山病虫年報 39: 45-48.
大須賀隆司・岩瀬達郎・小林久俊・牧野孝宏	1992	ジャガイモ黒あざ病に対する種芋消毒, 土壌処理及び土壌くん蒸の効果.	関東東山病虫年報 39: 49-52.
大須賀隆司	1992	バレイショ黒あざ病の防除対策.	農業技術研究 46(6): 52-55.
尾崎政春・萩田孝志	1976	ジャガイモの種いも消毒, 特に黒あざ病に対する効果.	北濃 43(5).13-22.
尾崎政春	1977	ジャガイモ黒あざ病に関する研究 1 新生塊茎への菌核付着時期とその推移.	日植病報 43(1): 108.(講要)
尾崎政春	1983	“ジャガイモ黒あざ病”, <i>Rhizoctonia</i> (リゾクトニア病菌), 「北海道畑作物の土壌病害」(宇井格生 監修).	北海道畑作物の土壌病害刊行会, 札幌市, pp.332-340.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
齋藤大明	1954	馬鈴薯黒疫病の研究(第1報) 萌芽日数並びに地温の発病に及ぼす影響.	北日本病虫年報 5: 93-94.(講要)
齋藤大明・福士隆二	1956	馬鈴薯黒疫病の研究(第2報) 馬鈴薯黒疫の発病源について.	北日本病虫年報 7: 67-68.(講要)
齋藤大明	1956	馬鈴薯黒疫の発生源としての土中菌の役割とその防除薬剤.	日植病報 21(2・3): 111.(講要)
齊藤 泉・高桑 亮・山田英一・高倉重義	1981	北海道におけるジャガイモ半身萎ちょう病の発生.	植防 35(7): 316-318.
齊藤 泉・高桑 亮・山田英一・高倉重義	1981	連作ほ場におけるバレイショ品種「ツニカ」の早期枯凋の原因について(予報).	日植病報 47(1): 99.(講要)
坂口 荘一・新須利則	1969	ジャガイモ粉状そうか病に関する研究 第2報 発病の品種間差.	九州病虫研報 15: 53-54.
坂口 荘一	1977	貯蔵ジャガイモの病害に関する知見, 特に乾腐病について.	九州病虫研報 23: 60-64.
坂口 荘一	1978	<i>Phytophthora</i> sp. によるジャガイモの茎の腐敗.	九州農業研究 40: 88.
坂口 荘一	1978	<i>Phytophthora</i> sp. によるジャガイモの茎の腐敗.	日植病報 44(1): 78.(講要)
坂口 荘一・新須利則	1981	施設栽培のジャガイモにおける黒あざ病の発生について.	九州病虫研報 27: 29-32.
坂口 荘一・鬼木正臣	1984	ハウス, トンネル, マルチ栽培のジャガイモから分離した <i>Rhizoctonia solani</i> の菌糸融合による類別と病原性.	日植病報 50(3): 400.(講要)
坂口 荘一	1984	ジャガイモ黒あざ病の発生と防除対策.	農薬研究 31(2): 39-42.
坂口 荘一・五島一成・新須利則	1984	ジャガイモ乾腐病に関する研究(第1報) 貯蔵中の発病経過ならびに塊茎中の糖類と有機酸の推移.	日植病報 51(3): 328-329.(講要)
坂口 荘一・新須利則	1985	ジャガイモ乾腐病に関する研究(第2報) 各種殺菌剤の発病防止効果.	九州病虫研報 31: 25-26.
櫻井義郎・狩野精司	1955	馬鈴薯炭疽病と土壤湿度並に土質との関係について.	北日本病虫年報 6: 64-65.(講要)
佐藤仁敏・川上 司・百町満朗	1988	ジャガイモ黒あざ病菌 (<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn) の雑草地下部における寄生生存の有無.	日植病報 54(3): 369.(講要)
佐藤三佳子・佐久間太・小池正徳・海老原克介・長尾英幸・角野晶大・小松 勉	1998	北海道産 <i>Verticillium dahliae</i> の栄養体親和性グループ.	日植病報 65(3): 399-400.(講要)
佐藤倫造	1983	<i>Verticillium albo-atrum</i> のアルファルファ菌株およびジャガイモ菌株の病原性.	日植病報 49(1): 120.(講要)
佐藤倫造	1988	<i>Verticillium albo-atrum</i> ジャガイモ系の前接種によるアルファルファの発病軽減効果.	日植病報 54(1): 117-118.(講要)
佐藤 亮・江住和雄	1956	馬鈴薯銀痂病について.	日植病報 21(1): 34.(講要)
佐藤 亮・江住和雄	1956	馬鈴薯銀痂病について.	日植病報 21(2・3): 111.(講要)
佐藤 亮・江住和雄・吉田博哉	1957	馬鈴薯銀痂病の防除について.	日植病報 21(1): 58-59.(講要)
Sbailhat, L. RF., Takemoto, D. and Kawakita, K.	2013	A crud water extract of brown sea algae induced resistance reactions in potato plant.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 79(3): 161. (abs.)
関口 明・杉本光二・三谷 滋・坂下信行	2000	フルアジナムによるバレイショ粉状そうか病および黒あざ病の防除.	日植病報 66(3): 307-308.(講要)
島田 聡・水野直治	2000	ジャガイモ粉状そうか病抑制に対する特殊施肥の効果.	土肥誌 71(2): 225-230.
島口金之助	1901	爪哇薯腐敗病並に貧乏草刈除に関する調査.	大日本農會報 234: 43-45.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
清水基滋	2012	ジャガイモ粉状そうか病菌の熱処理による死滅期間.	北日本病虫研報 63:42-45.
新須利則・坂口荘一	1969	ジャガイモ粉状そうか病に関する研究 第1報 ほ場における発生推移.	九州病虫研報 15: 51-52.
塩田弘行・秋元喜弘・与那嶺哲義・酒井芳徳	1968	ジャガイモ粉状そうか病に対するTMTD剤およびPCNB剤の防除効果.	日植病報 34(3): 187.(講要)
塩田弘行・与那嶺哲義	1969	ポマゾールエフの効果 とくにじゃがいも粉状そうか病の防除について.	農薬研究 15(3): 18-21.
白井佳代・三澤知央	2011	ジャガイモ夏疫病菌 <i>Alternaria solani</i> による貯蔵塊茎腐敗の国内での確認.	日植病報 77(3): 165.(講要)
白井佳代・三澤知央	2013	ジャガイモ夏疫病の塊茎での発生と発病程度の品種間差異.	北日本病虫研報 64: 35-39.
Suemitsu, R., Horiuchi, K., Horiuchi, M. and Hanabata, M.	1992	Detection of tentoxin by <i>Alternaria solani</i> , <i>A.cucumerina</i> , <i>A.bataticola</i> and <i>A.japonica</i> .	Biosci. Biotechnol. Biochem. 56(1): 139.
杉本みどり・小池正徳・海老原克介・長尾英幸・角野晶大	1998	日本産 <i>Verticillium albo-atrum</i> の栄養体親和性.	日植病報 64(6): 335.(講要)
角野晶大・田村 修・岩田康広・佐々木高行・西脇由恵	1993	北海道における <i>Verticillium dahliae</i> Klebahnによるジャガイモ半身萎ちよう病の発生について(予報).	日植病報 59(6): 767.(講要)
角野晶大・田中民夫・田村 修	1995	北海道におけるジャガイモ半身萎ちよう病の病原菌とその発生状況について.	日植病報 63(6): 533-534.(講要)
角野晶大	1997	ジャガイモ半身萎ちよう病菌 <i>Verticillium dahliae</i> , <i>V. albo-atrum</i> および <i>V. nigrescens</i> のジャガイモに対する病原性の比較.	日植病報 61(3): 226.(講要)
角野晶大	1997	ジャガイモ半身萎ちよう病菌の土壌中の微小菌核密度と発病程度.	日植病報 61(3): 226.(講要)
角野晶大	1998	北海道のジャガイモ栽培ほ場における <i>Verticillium dahliae</i> の土壌中の微小菌核密度.	日植病報 64(4): 331.(講要)
角野晶大	1998	ジャガイモ半身萎凋病菌 <i>Verticillium dahliae</i> , <i>V. albo-atrum</i> および <i>V. nigrescens</i> の寄主範囲.	日植病報 64(6): 580-581.(講要)
陶山一雄・一戸正勝・根岸寛光・藤井 溥	1986	ジャガイモ乾腐病菌の病原性.	日植病報 52(3): 520.(講要)
陶山一雄・Budi TJAHOJONO・藤井 溥	1990	貯蔵ジャガイモ塊茎に発生した粘性腐敗病.	日植病報 56(5): 577-583.
陶山一雄・根岸寛光・河原林主一・藤井 溥・Budi TJAHOJONO.	1991	ジャガイモ粘性腐敗病の圃場における発生.	関東東山病虫年報 38: 59-60.
鈴木 敦・谷井昭夫・西村正芳・戸倉幸三	1985	ジャガイモ乾腐病病原菌について.	日植病報 51(1): 107.(講要)
鈴木慶次郎・志賀弘行	2001	有機物施用がジャガイモそうか病の発病に及ぼす影響.	土肥誌 72(2): 287-290.
田淵浩康・内藤智子・小杉明子・仁王以智夫	2000	栽培管理の異なるジャガイモの根部に生息する微生物相の特徴.	土と微生物 54(1): 41-49.
高橋 実・大石親男	1966	ジャガイモ塊茎ミトコンドリアにおける蛋白様抗生物質の局在化.	日植病報 32(5): 323.(講要)
高橋 実・一谷多喜郎	1967	ジャガイモ塊茎中における <i>Pythium debaryanum</i> 菌株間の干渉現象.	日植病報 33(5): 336.(講要)
高橋喜夫	1952	作物地下部の病害(上) 馬鈴薯黒あざ病.	農業北海道 4(2): 20-23.
竹森俊彦・加藤文一・高桑 亮	1960	馬鈴薯発育初期における黒痣病による被害と品種間差異.	日植病報 25(1): 64.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
竹森俊彦	1960	<i>Pellicularia filamentosa</i> に対する馬鈴薯および甜菜の反応 (予報).	日植病報 25(5): 235-236. (講要)
竹森俊彦・高桑 亮・永田利男	1961	馬鈴薯黒疫病の発病に及ぼす前作物の影響 (予報).	日植病報 26(5): 233. (講要)
田部 眞・荒木昭介	1956	馬鈴薯炭疽病菌に対する各種乳剤の影響.	北日本農薬研報 5: 54-55. (講要)
田中智・野口 健・堀尾英弘	1978	本州高冷地におけるジャガイモ粉状そうか病の発生実態.	日植病報 44(1): 105. (講要)
田中 智・野口 健・堀尾英弘	1981	“II ジャガイモ粉状そうか病の発生生態”, ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15: 33-64.
田中 智・菅原裕孝・中澤 巴	1981	“IV ジャガイモ粉状そうか病の薬剤による防除”, ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15: 71-85.
田中 智	1981	“VI ジャガイモ粉状そうか病総合防除の試み”, ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15: 96-106.
田中 智	1982	本州高冷地におけるジャガイモ粉状そうか病の生態と防除.	植防 36(11): 510-515.
田中民夫・田村元・稲野一郎・桃野 寛・松永浩・木口忠彦・鈴木慶次郎・志賀弘行・大波正寿・藤田涼平・美濃健一・相馬 潤・田中文夫	2005	ジャガイモそうか病の発生程度に対応した総合防除.	北農 72(2): 134-140.
田代暢哉・松尾良満	1984	佐賀県におけるジャガイモ粉状そうか病の多発事例.	九州病虫研報 30: 27-29.
田杉平司・田部 眞	1955	馬鈴薯炭疽病菌に対する水銀剤の効力.	北日本病虫年報 6: 61-62. (講要)
友永 富・伊阪実人	1956	福井県で発生した馬鈴薯乾性そうか病について.	日植病報 20(4): 182. (講要)
坪木和男・阿部秀夫・青田盾彦	1976	網走地方におけるジャガイモ黒あざ病について 3. 塊茎付着菌核の伝染源としての役割.	日植病報 42(1): 96. (講要)
坪木和男・阿部秀夫・青田盾彦	1977	北海道網走地方におけるジャガイモ黒あざ病による奇形株の発生.	北海道立農試集報 37: 68-76.
土屋貞夫・赤井 純・森芳夫	1972	ジャガイモ菌核病の防除法.	北日本病虫研報 23: 104.
孀恋馬鈴しょ原原種農場(編)	1981	ジャガイモ粉状そうか病の生態および防除に関する試験.	馬鈴しょ原原種農場研報 15, 127p.
上田 進・別宮岩義・武智和彦・村上要三	1983	ジャガイモ粉状そうか病に対するイソプロチオラン剤などの防除効果.	日植病報 49(3): 420. (講要)
宇井格生・成田武四	1957	馬鈴薯粉状瘡痂病の寄主植物.	日植病報 22(1): 11. (講要)
梅原吉広	1965	ジャガイモ粉状そうか病の2, 3の発生条件について.	日植病報 30(5): 304. (講要)
梅原吉広	1965	ジャガイモ粉状そうか病の薬剤防除について.	北陸病虫研報 13: 74-77.
梅原吉広	1966	ジャガイモ粉状そうか病の防除について.	北陸病虫研報 14: 78-81.
牛木 純・近藤 史・上田実・福田 豊・大石頭一・内藤繁男	1999	ジャガイモ品種「サクラフブキ」の指斑病の発生に及ぼすホウ素およびカルシウム肥料の影響.	日植病報 65(3): 359. (講要)
牛木 純・近藤 史・三木信夫・福田 豊・大石頭一・内藤繁男	2001	ジャガイモ指斑病の発生に及ぼす使用済脱硫剤の施用および高度化成肥料の追肥による影響.	土肥誌 72(2): 223-229.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
牛木 純・近藤 史・三木 信夫・福田 豊・大石 頭一・内藤 繁男	2001	ジャガイモ指斑病の発生に及ぼすカルシウムおよびホウ素肥料の影響.	土肥誌 72: 230-236.
若江 治・馬場 達彦	1976	バリダマイシンの蔬菜類苗立枯病防除作用に関する研究 第4報 ジャガイモ黒あざ病 (I).	日植病報 42(2): 369-370. (講要)
山田 濟	1955	馬鈴薯の粉状そうか病について.	岡山農試時報 431: 4803-
山口農試	1915	馬鈴薯品種對夏疫病關係試験.	病蟲雜 2(2): 806.
山口農試	1916	馬鈴薯品種對夏疫病關係試験.	病蟲雜 3(3): 316-317.
山口農試	1916	馬鈴薯品種對夏疫病關係試験.	病蟲雜 3(12): 977-978.
山口農試	1918	馬鈴薯品種對夏疫病關係試験.	病蟲雜 5(2): 148-149.
山名利一・三澤 知央	2009	<i>Pyrenochaeta</i> sp.によるジャガイモ紅色斑点病 (新称).	日植病報 75(1): 85. (講要)
山名利一・中島 千晴	2012	ジャガイモ紅色斑点病菌の形態, 分子系統解析および病原性による同定.	日植病報 78(1): 60. (講要)
山梨農試	1937-1938	馬鈴薯黒痣病薬劑消毒試験.	山梨農試功程 (昭和12-13年).
山梨農試	1942	馬鈴薯黒痣病薬劑消毒試験.	病蟲雜 29(8): 405-406.
山下 修一・土居 養二・與良 清	1974	ムギ類立枯病菌ならびにジャガイモ炭疽病菌に見出された球形ウイルスについて.	日植病報 40(3): 214. (講要)
柳田 麒策	1976	ジャガイモ黒あざ病の種いも付着菌核による発病と被害.	日植病報 42(1): 96. (講要)
柳田 麒策	1976	ジャガイモ黒あざ病に対する種いも消毒の効果.	北日本病虫研報 27: 118. (講要)
柳田 麒策	1988	ジャガイモ黒あざ病の種いも消毒ーモンセレン剤の効果ー.	農薬研究 35(2): 37-46.
柳田 麒策	1989	ジャガイモの種いも消毒の経緯及び黒あざ病に対する効果.	北日本病虫研報 40: 192. (講要)
Yang, Y., Zhao, C., Guo, Z. and Wu, X.	2015	Potato stem canker caused by binucleate <i>Rhizoctonia</i> AG-G in China.	J. Gen. Plant Pathl. 81(2): 287-290.
与那覇 哲義・塩田 弘行・秋元 喜弘	1967	ジャガイモ粉状そうか病の発生実態.	日植病報 33(5): 349. (講要)
米村 信・来島 孝泰・堀 尾 英弘	1985	<i>Alternaria alternata</i> によるジャガイモの新病害について.	日植病報 51(3): 334. (講要)
米村 信・田中 智	1986	<i>Botrytis cinerea</i> によるジャガイモの塊茎腐敗.	日植病報 52(1): 139-140. (講要)
吉井 甫	1929	馬鈴薯夏疫病に就て.	病蟲雜 16(12): 741-747.

640 塊茎腐敗

鐙谷 大節	1969	馬鈴薯塊茎腐敗とその対策.	農薬 16(3): 39-43.
鐙谷 大節	1969	馬鈴薯塊茎腐敗防止に関する研究成果.	北農会, 札幌市, 64p. (タイプ印刷)
青森農試	1912	馬鈴薯の乾固病竝に甘藍の細菌病に對する豫防試験.	青森農試報告 (明治45).
道家 紀志・富山 宏平	1980	高温下傷害ジャガイモ塊茎の腐敗現象について.	関西病虫研報 22: 79. (講要)
(江住 和雄)	1968	種ばれいしょの腐敗防止と貯蔵法.	農林省園芸局特産課, 41p. (タイプ印刷)
伊藤 潔・岡村 和彦	1951	ジャガイモ秋作の催芽の腐敗防止.	農及園 26(7): 740-742.
北沢 健治・富山 宏平	1967	ジャガイモ塊茎腐敗病に関する観察.	北日本病虫研報 18: 59.
永井 政次・佐藤 繁六	1956	馬鈴薯塊茎腐敗病に関する研究.	北日本病虫年報 7: 68-70. (講要)
太田 勝美・宮脇 弘三	1962	秋バレイショの種薯腐敗防止.	農及園 37(6): 985-988.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
尾崎政春	1989	北海道におけるジャガイモ塊茎腐敗の発生環境と防除.	植防 43(3): 143-146.
高桑 亮	1966	馬鈴薯の塊茎腐敗について.	農薬の進歩 12(2): 24-29.
丹沢弘寿・松崎 深	1948	馬鈴薯二期作の種薯の腐敗.	農及園 23(7): 413-414.
東京府農試	1919	馬鈴薯の貯蔵中に起る腐敗豫防試験.	病蟲雑 6(8).726.
東京府農試	1920	馬鈴薯の貯蔵中に起る腐敗豫防試験.	病蟲雑 7(10): 589.

650 線虫病

相場 聡	2000	ジャガイモシストセンチュウ. (虫害)	農及園 75(1): 196-202.
相原孝雄・鈴木公英	1991	ジャガイモに寄生したキタネグサレセンチュウの検診技法等に関する知見.	昆虫学会51回大会・35回応動昆大会合同大会講要, p.182.
相原孝雄・平田賢司・相馬伸俊・鈴木公英・田中 健	1993	ジャガイモに寄生するキタネグサレセンチュウの簡易診断法.	植防研報 29: 63-71.
Ashikawa, I., Fukuzawa, A., Murai, A., Kamada, H. and Koshi, M.	1991	Production of potato cyst nematode hatching stimulus by hairy root cultures of tomato.	Agric. Biol. Chem. 55(8): 2025-2029.
芦川育夫・福澤晃夫・村井章夫・鎌田 博・甲子昌人	1991	毛状根培養によるジャガイモシスト線虫フ化促進物質の生産.	農化 65(3): 540. (講要)
芦川育夫・荒木智子・福澤晃夫・村井章夫・鎌田 博	1992	毛状根培養によるジャガイモシスト線虫ふ化促進物質の生産 II.	農化 66(3): 477. (講要)
馬場徹代・山田英一	1977	“線虫”, 「馬鈴薯」(田口啓作・村山大記監修).	グリーンダイセン普及会, 札幌, pp.251-265
福吉賢三・寺本 健・菅康弘	2016	長崎県の暖地二期作バレイショ栽培におけるジャガイモシストセンチュウの根絶に向けた防除モデルの検討.	長崎農技セ研報 7: 39-61.
福澤晃夫・鳥居悠介・仲平 敦・田中大介・串田篤彦	2004	トマト根浸出物の土壌内ジャガイモシストセンチュウに対する密度低減効果.	日線虫誌 34(2): 115. (講要)
福澤晃夫・坪内逸生	2010	ジャガイモシストセンチュウによる非寄主植物の成長促進効果.	日線虫誌 40(2): 64. (講要)
古川勝弘	2010	北海道におけるジャガイモシストセンチュウの被害と対策の現状.	日線虫誌 40(2): 57. (講要)
古川勝弘	2010	北海道におけるジャガイモシストセンチュウの発生と対応状況.	いも類振興情報 105: 23-26.
古川勝弘	2016	北海道におけるジャガイモシストセンチュウの発生状況と対応.	砂糖類・でん粉情報 42: 2-6.
後藤 昭	1958	ジャガイモイモグサレに関する研究.	長崎農試研報集(創立60周年記念号), pp.285-296.
後藤 昭・大島康臣	1960	ネグサレセンチュウに関する研究 日本産数種の形態的群別と長崎県産馬鈴しょ寄生種の発育について.	応動昆大会講旨 4: 16-17. (講要)
後藤 昭・大島康臣	1969	ジャガイモを加害するミナネグサレセンチュウの生態と防除に関する研究.	日生態会誌 19(3): 126. (講要)
後藤重喜	1956	じゃがいもいもぐされ線虫について.	植防 10(4): 153-156.
Hossain, S., Mian, I. H. and Tsuno, K.	1989	Efficacy of three nematicides and two oil cakes for control of root-knot nematode (<i>Meloidogyne incognita</i>) on potato seedlings.	J. Fac. Agr., Kyushu Univ. 34(1/2): 115-121.
百田洋二・大島康臣	1976	シストセンチュウ4種の走査電顕観察.	日線虫研誌 6: 14-23.
一戸 稔	1973	ジャガイモシストセンチュウの生態.	植防 27(2): 73-76.
一戸 稔	1958	馬鈴薯の腐敗塊茎より検出された線虫4種について.	応動昆大会講要(昭33): 15. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
一戸 稔	1972	北海道に発生したジャガイモシストセンチュウ.	今月の農薬 16(12): 30-35.
一戸 稔	1973	ジャガイモシストセンチュウの発生と予防.	技術と普及 10(12): 93.
一戸 稔・岡本好一・気賀沢和男・稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウの寄生型.	応動昆大会講要 18回: 357. (講要)
一戸 稔・岡本好一・気賀沢和男・稲垣春郎	1975	ジャガイモシストセンチュウの寄生型 (II).	応動昆大会講要 19回: 439. (講要)
一戸 稔	1979	馬鈴しょの大敵、北海道のジャガイモシストセンチュウについて.	澱粉会報 14(1): 3-7.
飯島 鼎	1958	ジャガイモイモグサレ線虫.	今月の農薬 2(10): 106-108.
Inagaki, H. and Keganuma, K.	1973	Discovery of the potato cyst nematode, <i>Heterodera rostochiensis</i> Wollenweber, 1932, (Tylenchida: Heteroderidae) from Peru guano.	Appl. Ent. Zool. 8(2)97-102.
稲垣春郎・気賀沢和男・堤 正明	1973	圃場におけるジャガイモシストセンチュウの寄生によるジャガイモの被害とその症状.	日線虫研誌 3: 25-29.
稲垣春郎・堤 正明・気賀沢和男	1973	ジャガイモシストセンチュウに関する研究ふ化, 侵入, 繁殖におよぼす温度の影響.	応動昆大会講要 17回: 133. (講要)
稲垣春郎・気賀沢和男・堤 正明	1973	圃場におけるジャガイモシストセンチュウの寄生によるジャガイモの被害とその症状.	日線虫研誌 3: 25-29.
稲垣春郎・気賀沢和男	1974	ジャガイモシストセンチュウの伝播経路.	日植病報 40(2): 121. (講要)
稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのシスト内卵・幼虫の致死温度.	応動昆大会講要 18回: 360. (講要)
稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのジャガイモ塊茎への寄生.	日線虫研誌 4: 11-12.
稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウの生態 (II).	応動昆大会講要 18回: 9. (講要)
稲垣春郎・気賀沢和男	1974	圃場におけるジャガイモシストセンチュウ蔵卵シストの土壤中垂直分布.	日線虫研誌 4: 57-58.
稲垣春郎・宮谷内留行・気賀沢和男	1975	ブタの摂食によるジャガイモシストセンチュウの生死.	応動昆大会講要 19回: 440. (講要)
稲垣春郎	1976	ジャガイモシストセンチュウのわが国への伝播経路.	今月の農薬 20(3): 22-25.
Inagaki, H. and Kegasawa, K.	1976	Viability of encysted larvae and eggs of potato cyst nematode, <i>Heterodera rostochiensis</i> Woll., after being fed by hen or swine, and at their body temperatures.	Jap. J. Nematol. 6: 7-9.
稲垣春郎	1977	ジャガイモシストセンチュウのジャガイモ塊茎への寄生.	日線虫研誌 4: 11-12.
稲垣春郎	1977	現地圃場におけるジャガイモシストセンチュウの年間発生消長.	日線虫研誌 7: 33-38.
Inagaki, H.	1977	Seasonal occurrence of the potato cyst nematode, <i>Globodera rostochiensis</i> (Woll.) Mulbey & Stone, in Hokkaido, Japan.	Jap. J. Nematol. 7: 33-38.
Inagaki, H.	1978	Decrease of <i>Globodera rostochiensis</i> population by resistant potato varieties and non-host crops in greenhouse trials.	Jap. J. Nematol. 8: 11-15.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Inagaki, H.	1978	Research on the ecology and control of the potato cyst nematode, <i>Globodera rostochiensis</i> (Woll.) mulvey and stone, occuring in Hokkaido, Japan.	Rev. Plant Protect.Res. 11: 119-131.
Inagaki, H.	1984	Studies on the ecology and control of the potato cyst nematode, <i>Globodera rostochienii</i> .	Res. Bull. Hokkaido Natl. Agric. Exp. Stn. 139: 73-144.
稲垣春郎	2004	ジャガイモシストセンチュウの日本への伝播経路.	熱帯農業 48(5): 324-329.
井上 平	1974	ジャガイモのネコブセンチュウに対するDCIP粒剤の効果.	九州病虫研報 20: 48-49.
井上 平	1975	ジャガイモの連作に伴うネコブセンチュウ被害とその防除 とくに土壤病害発生防止との関連.	長崎総農試研報(農業) 3: 48-59.
井上 平	1973	春秋二期作ジャガイモにおける連作に伴うネコブセンチュウの増殖と減収.	応動昆大会講要 17回:135. (講要)
井上 平	1974	ジャガイモのネコブセンチュウに対するDCIP粒剤の効果.	九州病虫研報 20:48-49.
井上 平	1974	春秋二期作ジャガイモのネコブセンチュウ被害 (2)こぶ塊茎の発生.	九州農業研究 36:131.
井上 平	1975	ジャガイモの連作に伴うネコブセンチュウ被害とその防除, とくに土壤病害発生防止との関連.	長崎県総農試研報 3: 48-59
井上 平	1977	連作によるネコブセンチュウ汚染圃場で見られたジャガイモの諸障害.	日線虫研誌 7: 66-69.
井上勝広・小嶺正敬・織田 拓・浦上敦子	2007	ジャガイモシストセンチュウ密度に及ぼすアスパラガス残渣の土壤鋤込みの影響.	九州農業研究発表会要旨集 70: 190.(講要)
石井象二郎	1952	馬鈴薯ネマトーダを孵化させる物質.	植防 6(1): 31.
加藤利之	1972	ジャガイモシストセンチュウ「北海道」に新発生.	植防 26(11): 442.
河村貞之助・平野和哉	1964	ジャガイモのいもぐされ線虫病と <i>Fusarium</i> spp. との関係.	日植病報 29(2): 61.(講要)
気賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明	1973	ジャガイモシストセンチュウに関する研究シストの密度分布と被害.	応動昆大会講要 17回:134. (講要)
気賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明	1976	ジャガイモシストセンチュウの圃場内分布と年次変動.	応動昆大会講要 20回: 118. (講要)
気賀沢和男・堤 正明・稲垣春郎・山田英一・高倉重義・坪木和男・黒沢 強・井上 寿	1977	北海道斜網東部地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生.	日線虫研誌 7: 82-83.
気賀沢和男	1978	シストセンチュウに対する薬剤の-検定法.	日線虫研誌 8: 55-56.
気賀沢和男・堤正 明・稲垣春郎・山田英一・高倉重義・坪井和男・黒沢 強・井上 寿	1977	北海道斜網東部地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生.	日線虫研誌 7:82-83.
串田篤彦・植原健人・百田洋二	1997	rDNAのITS1領域の塩基配列に基づくジャガイモシストセンチュウ各地域個体群間差異.	日線虫誌 27(2): 101.(講要)
串田篤彦・植原健人・百田洋二	2004	肥量・種いもサイズ・殺線虫剤敵施用がジャガイモシストセンチュウ畑でのバレイショ収量に及ぼす影響.	日線虫誌 34(2): 115.(講要)
串田篤彦	2010	シストセンチュウに対する抵抗性の効果と問題点.	日線虫誌 40(2): 59.(講要)
児島司忠	1973	ジャガイモシストセンチュウの発生と防除対策.	植防 27(2): 69-72.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1974	殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究(第3報) DBCP剤の処理により形成される褐変色素について.	近畿大農紀要 7: 41-48.
今 友親・上野賢司・山田英一・高倉重義	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 抵抗性, 耐性ジャガイモ品種の検索.	応動昆大会講要 18回: 361. (講要)
今 友親・上野賢司・山田英一・高倉重義	1975	ジャガイモシストセンチュウによるばれいしよの被害について.	育種・作物学会北海道談話会報 15: 15. (講要)
今 友親・上野賢司・山田英一・高倉重義	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 施肥量と品種反応.	応動昆大会講要 20回: 120. (講要)
今 友親・上野賢司・高宮泰宏・山田英一・高倉重義	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第2報 被害解析.	北農 49(9): 1-15.
Kort, J.	1979	オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除に関する政府の対策.	澱粉会報 14(1): 37-46.
串田篤彦・植原健人・百田洋二	2003	筒移植栽培ジャガイモのジャガイモシストセンチュウによる被害特性.	北日本病虫研報 54:197-200.
増田 税	2010	(2S-4) トマト遺伝子を用いたマクロアレイの開発とジャガイモシスト線虫土壌診断の実用化.	日本農薬学会講要集 35th: 36. (講要)
松下慶三郎・佐伯 聡・石川勝典	1981	イモグサレセンチュウ <i>Ditylenchus destructor</i> Thorne によるジャガイモ・球根類の病徴.	植防研報 17: 97-99.
長崎県病害虫防除所	1992	ジャガイモシストセンチュウの発生について.	平成4年度病害虫発生予察特殊報第3号.
中園和年・宇杉富雄・荒城雅昭	1990	ジャワネコブセンチュウによるジャガイモ塊茎の被害と種薯による線虫伝播.	日線虫研誌 20: 56.
中田正彦	1958	馬鈴薯のイモ腐れ線虫.	今月の農薬 2(1): 46-53.
奈良部 孝	2009	ジャガイモシストセンチュウの簡易検出法～「プラスチックカップ土壌検診法」～.	でん粉情報 21: 4-8.
奈良部 孝・桂川尚彦・副島 洋	2010	トマト根由来ふ化促進物質の土壌混和処理によるジャガイモシストセンチュウの密度低減効果.	日線虫誌 40(2): 64. (講要)
奈良部 孝	2010	ジャガイモシストセンチュウの生態と簡易土壌診断法の開発.	いも類振興情報 105: 2-6.
奈良部 孝	2012	孵化促進物質によるジャガイモシストセンチュウ駆除技術の開発.	いも類振興情報 110: 28-35.
奈良部 孝	2014	トマト由来孵化促進物質の資材化とジャガイモシストセンチュウ被害回避への利用.	いも類振興情報 118: 21-24.
奈良部 孝・谷野圭持	2014	合成ふ化促進物質 Solanoeclepin Aによる土壌中のジャガイモシストセンチュウ密度低減効果.	日植病報 80(4): 294. (講要)
西沢 務	1958	馬鈴薯いもくされ線虫について.	関西病虫研報 1: 128. (講要)
西沢 務・岡本好一・稲垣春郎・気賀沢和男	1977	ジャガイモシストセンチュウのパソタイプ判別国際方式の検討.	応動昆大会講要 21回: 43. (講要)
農林水産技術会議	1980	ジャガイモシストセンチュウの防除に関する研究.	研究成果 127: 1-158.
小芦健良	1979	ネコブセンチュウによるジャガイモの被害例.	日線虫研誌 9:75-76.
小川義雄・永野道昭・樋口泰三・一戸 稔	1976	長崎県のジャガイモ栽培地帯で検出された本邦未記録のシストセンチュウ.	九病虫研報 22: 118-120.
大橋敏伸	2013	先進地域と発展途上国のばれいしよ機械化体系.	砂糖類・でん粉情報 10: 1-6.
大類幸夫	1997	PCR-RFLP解析による日本産のジャガイモシストセンチュウおよび4種の <i>Heterodera</i> 属のシストセンチュウの識別.	日線虫誌 27(2): 100-101. (講要)
岡田利承	1975	シストセンチュウの孵化刺激物質.	日線虫研誌 5: 1-9.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
岡本好一・一戸 稔	1976	ジャガイモシストセンチュウの増殖とシストの接種時期.	日線虫研誌 6: 98.
岡本好一・一戸 稔・三井 康・中園和年	1976	北海道に発生するジャガイモシストセンチュウの寄生型(Pathotype).	応動昆大会講要 20回: 120. (講要)
小野寺鶴将・古川勝弘・伊藤 舞・真鍋照彦	1014	ジャガイモシストセンチュウ土壌検診のためのサンプリング法.	日線虫誌 44(2): 56. (講要)
Saigusa, T. and Matsumoto, Y.	1961	The survey of the plant parasitic nematodes, distributed in the fields of the export plant and the seed potato. I Classification of the main plant parasitic nematodes separated from sampling soil.	Res. Bull. Plant Protection Service Japan 1: 89-94.
三枝敏郎・気賀沢和男・湯原 巖・堤 正明・稲垣春郎・桜井義郎・山田英一・高倉重義・一戸 稔	1972	北海道真狩・留寿都地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生分布.	日線虫研誌 2: 45-46.
三枝敏郎・安藤幸夫	1973	ジャガイモシストセンチュウ <i>Heterodera rostochiensis</i> Wollenweber の篩別検出にあたっての1, 2の知見.	植防研報 11: 48-52.
三枝敏郎・一丸政雄・池田正幸	1974	ジャガイモシストセンチュウの植物および土壌両検診方法の比較.	植防研報 12: 56-62.
三枝敏郎・倉持仁厚	1976	ジャガイモ開花期におけるシストの抜き取り観察と土壌中シストの検出.	植防研報 13: 11-18.
三枝敏郎	1973	ついに日本に発生したゴールデンネマトード Golden nematoda北海道で発生.	農薬研究 19(3): 19-23.
三枝敏郎	1974	ジャガイモシストセンチュウのほ場検診についての1・2の検討.	応動昆大会講要 18回: 356. (講要)
坂上大樹	2016	ジャガイモシストセンチュウの密度低減に向けて～JAこしみずの取り組み～.	砂糖類・でん粉情報 42: 7-14.
佐久間 太	2010	シストセンチュウ対策としての緑肥作物の開発とその活用.	日線虫誌 40(2): 59-60. (講要)
清水 啓	1984	ジャガイモシストセンチュウ:発生十二年目の現状と対策.	今月の農薬 28(12): 34-37.
品田良雄	1978	ジャガイモシストセンチュウの防除.	農水省公報 (aff) 昭和53(12), pp.33-38.
杉山俊平・増田 税	2011	作物健康センサーを用いたジャガイモシストセンチュウ土壌診断.	日本農薬学会誌 36(1): 98-101.
高倉重義・手塚 浩・山田英一	1973	ジャガイモシストセンチュウの本邦における初発見について.	北日本病虫研報 24: 91.
高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究殺線虫剤の春処理による効果と問題点.	応動昆大会講要 18回: 362. (講要)
高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究線虫密度とジャガイモの被害.	応動昆大会講要 20回: 118. (講要)
高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親	1979	ジャガイモシストセンチュウに対する殺線虫剤の効果.	北海道立農試集報 42: 67-79.
高倉重義・山田英一	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究土壌深度別の線虫密度変動.	北日本病虫研報 32: 54-56.
高倉重義・山田英一・上野賢司・高宮泰宏・今 友親	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究各種防除手段組合せ効果の検討.	応動昆大会講要 25回: 133. (講要)
高倉重義・山田英一・高宮泰宏・今 友親・上野賢司	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第5報 防除対策.	北農 49(11): 1-25.
高宮泰宏・上野賢司・山田英一・高倉重義・今 友親	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究輪作年限と線虫密度及びバレイショの収量について.	応動昆大会講要 25回: 132. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
高宮泰宏・上野賢司・今友親・山田英一・高倉重義	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除対策 第3報 線虫に対する品種の特性.	北農 49(9): 16-38.
田中伊之助・宮本健太郎・藤井 溥・相川英雄	1956	線虫によるジャガイモイモグサレについて.	九州病虫研報 2: 5-7.
田中伊之助・宮本健太郎	1957	ジャガイモイモグサレについて.	長崎農試研究速報 8: 1-8.
田中伊之助・藤井 溥・相川英雄・池田定男	1958	ジャガイモイモグサレについて.	日植病報 23(1): 58.(講要)
田中伊之助・宮本健太郎・藤井 溥・相川英雄・池田定男	1958	ジャガイモイモグサレについて.	九州農業研究 20: 102-103.
田中俊憲・森 元幸・保坂和良	1998	ジャガイモシストセンチュウ抵抗性遺伝子H1に連鎖するPCRマーカーの開発.	日本分子生物学会年会講要集 21st: 234.(講要)
田中俊憲・小村国則	2000	遺伝子診断技術によるジャガイモシストセンチュウ抵抗性の検定法(1).	長崎総農試研報(農業) 26: 1-18.
田中俊憲・小村国則	2000	ジャガイモシストセンチュウ抵抗性に連鎖するPCRマーカーの開発.	九州農業研究 62: 208.
谷野圭持	2015	シストセンチュウふ化促進物質の不斉全合成.	化学と生物 53(1): 34-37.
寺本 健	1997	長崎県におけるジャガイモシストセンチュウの発生生態 2. ジャガイモ畑における年間発生消長.	日線虫誌 27(2): 85-86.(講要)
寺本 健・中須賀孝正・松尾和敏・菅 康弘・小川哲治	1998	長崎県におけるジャガイモシストセンチュウの発生生態と防除.	長崎総農試研報(農業) 24: 39-62.
寺本 健	1998	暖地バレイショ二期作ほ場におけるジャガイモシストセンチュウに対する殺線虫剤の連続処理の効果.	九州病虫研報 44: 123.(講要)
寺本 健	1999	長崎県におけるジャガイモシストセンチュウの発生生態 3. 植付前卵密度と寄生程度・収量の関係.	九州病虫研報 45: 72-75.
Toida, Y. and Ekanayake, H.M.R.K.	1992	Occurrence and distribution of the potato cyst nematode, <i>Globodera rostochiensis</i> (WollenweberR,1923) in Sri Lanka.	Jap. J. Nematol. 22: 43-48.
Toyota, K., Shirakashi, T., Sato, E., Wada, S. and Min, Y.Y.	2008	Development of a real-time PCR method for the potato-cyst nematode <i>Globodera rostochiensis</i> and the root-knot nematode <i>Meloidogyne incognita</i> .	Soil Sci. Plant Nutri. 54(1): 72-76.
堤 正明	1974	ジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす2・3の要因.	応動昆大会講要 18回: 359.(講要)
堤 正明	1975	ジャガイモシストセンチュウ卵ふ化におよぼす根浸出液の採取方法の影響.	北日本病虫研報 26: 93.
堤 正明	1976	ジャガイモシストセンチュウのふ化, 寄生におよぼす対抗植物, 殺線虫剤の影響.	北日本病虫研報 27: 103.
堤 正明	1976	ジャガイモ根浸出液の採取時期がジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす影響.	日線虫研誌 6: 10-13.
堤 正明	1977	ジャガイモシストセンチュウのふ化におよぼすほ場耗培のジャガイモ根浸出液の影響.	応動昆大会講要 21回: 42.(講要)
堤 正明	1978	圃場栽培ジャガイモ浸出液のジャガイモシストセンチュウ孵化促進効果.	日線虫研誌 8:16-19.
上田浩之	2010	ジャガイモシストセンチュウまん延防止の取り組み.	いも類振興情報 105: 27-31.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
植田重昭・坂野千秋・野村旭・百田洋一・吉原照彦	2001	ジャガイモシストセンチュウ(<i>Globodera rostochiensis</i>) の孵化促進物質.	農化 75(別): 235.(講要)
植原健人・串田篤彦・伊藤賢治・奈良部孝・百田洋二	2004	シストセンチュウ(<i>Globodera</i> 属)のリボゾームDNAITS領域の比較T.	日線虫誌 34(2): 111.(講要)
植原健人	2007	ジャガイモに寄生するシストセンチュウー ジャガイモシロシストセンチュウとジャガイモシストセンチュウー.	植防 61(7): 374-377.
植原健人	2008	ジャガイモシストセンチュウと近縁種の簡便な遺伝子診断法.	植防 62(11): 567-570.
植原健人・伊藤賢治・奈良部 孝	2008	トマト品種および近縁野生種におけるジャガイモシストセンチュウ <i>Globodera rostochiensis</i> (Woll.) 寄生程度の差異.	応動昆 52(3): 146-148.
植原健人	2010	ナス科作物のシストセンチュウ抵抗性とメカニズム解明.	日線虫誌 40(2): 58.(講要)
Uehara, T., Narabu, T., Itou, K. and Masuta, C.	2015	Detection of the potato cyst nematode resistance gene Hero A in Japanese tomato cultivars by the PCR-RFLP method.	Nematol. Res. 45(2): 115-120.
植原健人	2016	ジャガイモシストセンチュウ抵抗性遺伝子Heroを持つトマトとその特徴.	植防 70(10): 672-675.
上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義	1974	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 高密度ほ場におけるジャガイモの生育.	応動昆大会講要 18回: 358.(講要)
上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 導入抵抗性品種の栽培による線虫密度変動.	応動昆大会講要 20回: 119.(講要)
上野賢司・山田英一・高倉重義・高宮泰宏・今 友親	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 抵抗性品種「ツニカ」の栽培法と線虫密度.	応動昆大会講要 25回: 132.(講要)
上野賢司・山田英一・高倉重義・今 友親・高宮泰宏	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除 第4報 輪作の効果と輪作作物の栽培法.	北農 49(10): 1-20.
梅村芳樹・稲垣春郎	1974	ジャガイモシストセンチュウの防除に関する全ソビエト連邦シンポジウム資料(翻訳).	北海道農試病理昆虫部研究資料 1: 1-38.
若林敏一	1964	馬鈴薯のネグサレセンチュウに関する研究.	東北農試研究速報 2: 29-34.
Yamada, E., Takakura, S. and Tezuka, H.	1972	On the occurrence of the potato cyst nematode, <i>Heterodera rostochiensis</i> Wollenweber in Hokkaido, Japan.	Jap. J. Nematol. 2: 12-15.
山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親	1974	ジャガイモシストセンチュウの生態 (I).	応動昆大会講要 18回: 8.(講要)
山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親	1976	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 2, 3のジャガイモ品種における線虫の消長と作物の生育.	応動昆大会講要 20回: 117.(講要)
山田英一	1977	“ジャガイモシストセンチュウの技術対策”, 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編(農林省農林水産技術会議事務局編).	農林統計協会, 東京, pp.330-331.
山田英一・高桑 亮・高倉重義	1977	ジャガイモシストセンチュウに対する極超短波照射の効果.	応動昆大会講要 21回: 43.(講要)
山田英一	1980	ジャガイモシストセンチュウの生態と防除.	植防 34(2): 49-59.
山田英一・高倉重義	1981	ジャガイモシストセンチュウに関する研究 捕獲作物の検索と利用の試み.	北日本病虫研報 32: 57-66.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
山田英一・高倉重義・上野賢司・今友親・高宮泰宏	1982	ジャガイモシストセンチュウとその防除 第1報 北海道の発生分布と生態.	北農 49(8): 1-28.
山田英一	1987	ジャガイモシストセンチュウの生態と防除に関する研究.	北海道立農試報告 61: 1-98.
横尾多美男	1951	Golden Nematodeとはどんな線虫か.	日植病報 15(3・4): 166-167. (講要)
横尾多美男・水上武幸	1956	馬鈴薯寄生線虫についての1, 2の調査.	九州病虫研報 2: 1-3.
横尾多美男・田中伊之助・水上武幸・後藤重喜	1956	馬鈴薯イモグサレ線虫に関する調査研究.	植防 10(9): 363-365.
横尾多美男・松延浩気	1957	馬鈴薯寄生の根腐線虫の致死温度.	佐賀大農学部彙報 5: 97-102.
Yokoo, T.	1956	On the occurrence of the root lesion nematode, <i>Pratylenchus pratensis</i> as the tuber parasite of the potato in Japan.	Agr. Bull. Saga Univ. 4: 141-168.
Yokoo, T. and matsumoto, Y.	1958	On the variation of dimension within soil nematodes. (I) Dimension of root lesion nematodes, <i>Pratylenchus</i> spp..	Agr. Bull. Saga Univ. 7: 49-66.
Yoshihara, T., Yamaguchi, K. and Sakamura, S.	1982	A lignan type stress compound in potato infected with nematode (<i>Globodera rostochiensis</i>).	Agr. Biol. Chem. 46(3): 853-854.
湯原 巖	1973	土性調査用保存土壌からのジャガイモシストセンチュウの発見.	応動昆 17(3): 162-163.

660 生理障害

秋山昌弘	1964	凍霜害が馬鈴薯生産収量に及ぼす影響.	農及園 39(12): 1873-1874.
青森農試	1926	馬鈴薯褐色心腐病に就て.	青森農試年報(昭和10-11).
青森農試	1935-1936	褐色心腐病豫防試験.	青森農試成績 22: 24-28.
後藤孝雄・中村吉秀	1994	暖地ばれいしょの凍霜害助長細菌の生体と防除 -1.	日植病報 60(6): 736. (講要)
後藤孝雄・中村吉秀	1995	暖地ばれいしょの凍霜害助長細菌の生態と防除.	九州農業研究 57: 88.
五島善秋・石黒 隆・谷田沢道彦	1954	植物のマグネシウム欠乏症に関する研究(第4報) ジャガイモのマグネシウム欠乏症.	滋賀農短大学報 1 (6): 19-22.
萩原 十・余吾卓也	1943	馬鈴薯の冠水に関する実験.	園学雑 14(4): 314-316.
原 秀雄	1949	馬鈴薯の二次生長に関する研究 III 二次生長ジャガイモ塊茎に関する二三の観察.	北薯連資料 No.10: 11-19.
原 秀雄	1949	馬鈴薯の二次生長に関する研究 IV ジャガイモの二次生長並びに土壌湿度との関係に就いて.	北薯連資料 No.10: 21-24.
北海道農務部農業改良課・北生連	1958	馬鈴薯爪跡状傷害に関する調査 第1報(昭和32年度成績).	北生連資料 No.1: 1-13.
北海道農試	1928	馬鈴薯褐色心腐病に関する調査.	北海道農試概要(昭和3): 55.
ホクレン	1986	馬鈴薯の生産改善に関する試料(その8) -晩霜害特集-.	全道馬鈴薯生産改善協議会・ホクレン, 札幌, 82p.
堀口逸雄・坂本勝美	1939	馬鈴薯の二次生長.	北農 6(1): 11-16.
星野好博	1939	馬鈴薯黒色心腐病.	北農 6(9): 419-421.
市川久雄・原田敏男	1960	ジャガイモの低温処理と黒色心腐症状の発生.	関東東山病虫年報 7: 25.
伊藤博武・宮武勝美・小松輝行	2005	1998年6月3日に北海道斜網地域で発生したジャガイモの霜害から地形を読む.	日作紀 74(3): 346-368.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
岩間和人・茂木紀昭・市川伸次・川嶋浩樹・金子 正	1994	1994年の北大農場におけるバレイショ塊茎の2次生長と土壤水分条件との関係.	日本育種学会・日本作物学会北海道談話会会報 35: 32-33. (講要)
岩間和人・川嶋浩樹・金子 正・茂木紀昭・市川伸次	1995	1994年の北大農場におけるバレイショ塊茎の2次生長と土壤水分条件との関係.	北大農場研報 29: 15-22.
河合一郎	1945	冠水せる馬鈴薯塊茎・甘藷塊根の腐敗現象.	農及園 20(4): 181.
川谷貴雄・市川裕雄	1980	ジャガイモの葉枯れ症状について.	園学中四国支部要旨. 19: 44. (講要)
川合貴雄・市川裕雄・坪井 勇	1985	岡山県でみられたジャガイモのマグネシウム欠乏症について.	岡山農試研報 5: 55-60.
兒玉敏夫・高瀬 昇・大田陽一郎	1951	馬鈴薯の霜害について.	関東東山農試研報 1: 36-41.
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1971	殺線虫剤によるジャガイモの褐変現象に関する研究 (第1報) 褐変機構について.	農化 45(11): 483-488.
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1972	殺線虫剤DBCPによるジャガイモ塊茎褐変の産地間差異.	農化 46(12): 607-612.
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1974	殺線虫剤DBCPによるジャガイモ塊茎組織での rishitin 形成および蓄積の誘導.	農化 48(11): 599-604.
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1974	殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究 (第3報) DBCP剤の処理により形成される褐変色素について.	近畿大農紀要 7: 41-48.
駒井功一郎・佐藤庄太郎	1976	ハロゲン化アルキル系化合物によるジャガイモ塊茎の褐変現象と rishitin 誘導.	農化 50(8): 357-362.
日下部正雄・山本祐三	1950	馬鈴薯の霜害防除(土かけ)の効果.	産業気象調査報告(気象庁編) 14(3): 8-10.
米田 勉・森 元幸・梅村芳樹	1991	バレイショ褐色心腐の発生 1. 症状および発生率の品種間差.	育種・作物学会北海道談話会報 32: 26-27. (講要)
米田 勉・森 元幸・梅村芳樹	1991	バレイショ褐色心腐の発生 2. 圃場, 個体, 塊茎間の発生率の差異.	育種・作物学会北海道談話会報 32: 28-29. (講要)
松永 貢	1958	甘藷・馬鈴薯傷における電気抵抗の経時的変化.	日植病報 23(1): 14. (講要)
松永 貢	1958	馬鈴薯傷における電気抵抗の変化.	日植病報 23(1): 44. (講要)
森 元幸	1998	ラセット.	いも類振興情報 56: 8.
森 一幸・中尾 敬・向島信洋	2003	バレイショの曝光による緑化の進展とその防止対策.	九州農業研究 65: 44.
成田武四	1965	貯蔵ジャガイモの病害および生理障害の見分け方.	植防 19(2): 77-81.
西中未央・出宮誠司・森 元幸	2010	2010年におけるバレイショ塊茎の中心空洞発生品の品種間差.	育種・作物学会北海道談話会報 51: 53-54. (講要)
Okazawa, Y. and Iriuda, N.	1980	On occurrence of defected potato tubers with rough russeted skin.	Jpn. J. Crop. Sci. 49(1): 58-65.
奥山善直・梅村芳樹	1974	ばれいしょ塊茎の二次生長に関する2~3の観察.	育種・作物学会北海道談話会報 14: 31. (講要)
奥山善直	1976	ばれいしょ塊茎の二次生長.	農業技術 31(2): 77-78.
佐藤久泰・佐藤静也・森 繁寿・石田為雄	1979	31. 「ばれいしょ」の二次生長と澱粉価について.	育種・作物学会北海道談話会報 19: 31 (講要)
信夫隆治	1954	ジャガイモの奇形.	採集と飼育 16(6): 186-187.
白井光太郎	1895	馬鈴薯細蔓病. , 馬鈴薯ノ再生病. , 馬鈴薯ノ痲點病. (「植物病理學 上編」)	白井光太郎, 東京, pp.53-54., 106-108., 108-111.
東海林繁治	1942	馬鈴薯の冠水による腐敗, 特に時間に関する実験.	農及園 17(8): 1027-1030.
則天会園芸編集局	1940	馬鈴薯の心の黒くなる病害.	則天会園芸 23(2).

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
高橋孝吉・沼田京太・横山とも子	1993	INA- <i>Pseudomonas fluorescens</i> によるジャガイモの生物質凍霜害防除の試み.	日植病報 59(6): 724.(講要)
高橋直徳	1960	馬鈴薯二次生長塊茎の萌芽性.	日作紀 28(4): 387.(講要)
手島寅雄・高橋直徳	1949	馬鈴薯の二次生長に関する研究 第1報 ジャガイモの二次生長誘発の原因としての高温に就て.	北薯連資料 No.10: 1-4.
手島寅雄・高橋直徳	1949	馬鈴薯の二次生長に関する研究 第2報 外界条件の變化に依る人為的二次生長塊茎の誘発に関する研究.	北薯連資料 No.10: 5-10.
手島寅雄・高橋直徳	1949	ジャガイモの二次生長に関する研究 (第2報) 外界条件の變化に依る人為的二次生長塊茎の誘発に関する實驗的研究.	日作紀 18(2-4): 108-111.
手島寅雄・高橋直徳	1951	ジャガイモの異常塊茎に関する研究.	日作紀 19(3・4): 271-274.
手島寅雄	1952	馬鈴薯の二次生長に関する研究 (第3報) ジャガイモの二次生長塊茎誘発に及ぼす水耕液の濃度の變化並に処理期間の影響に就て.	日作紀 20(1・2): 189-192.
手島寅雄・高橋直徳	1952	馬鈴薯の二次生長に関する研究 第4報 咸南白に発生した5次生長塊茎の組成に就て.	日作紀 21(1・2): 71-72.
手島寅雄・高橋直徳	1952	馬鈴薯の2次生長に関する研究 (第5報) 水耕液の濃度並に処理時間の變化が二次生長塊茎誘発に及ぼす影響 (續報).	日作紀 21(1・2): 142.
手島寅雄・高橋直徳	1953	馬鈴薯の二次生長に関する研究 第6報 二次生長塊茎の種薯としての価値について.	日作紀 22(1・2): 117-118.
手島寅雄・高橋直徳	1953	馬鈴薯の二次生長に関する研究 (第7報) 生育中の各時期の乾燥と二次生長塊茎の形態.	日作紀 22(1・2): 119.
手島寅雄・高橋直徳	1954	馬鈴薯の二次生長に関する研究 (VIII) 生育中に於ける乾燥が滲透圧に及ぼす影響.	日作紀 23(1): 62-63.(講要)
豊田徳治	1934	馬鈴薯の褐色心腐病に就て.	山形農試農友会報 124: 6-9.
梅村芳樹・森田孝延・佐藤 毅	1995	バレイショ褐色心腐(Internal Brown Spot)の有機キレートカルシウム剤による抑制効果 予報.	育種・作物学会北海道談話会報 36: 122-123.(講要)
梅村芳樹・小中原錦・山口国夫・中山道憲	1996	バレイショ褐色心腐(Internal Brown Spot)の有機キレートカルシウム剤による抑制効果 (第2報).	育種・作物学会北海道談話会報 37: 130-131.(講要)
渡辺直道	1974	バレイショ褐色心腐病におよぼす栽培法と地温の影響について.	明治大農研報 32: 41-48.
渡辺芳明	1964	馬鈴薯の霜害防止と回復処理方法.	農及園 39(3): 473-476.
吉田 稔	1988	道産バレイショの中心空洞と変形.	いも類振興情報 16: 2-6.
吉田 稔	2001	中心空洞と褐色心腐れの防止技術.	いも類振興情報 67: 1-5.

670 害虫 (防除を含む)

福吉賢三・菅 康弘	2014	バレイショ有機栽培で発生する害虫および土着天敵の発生動向.	九州病虫研報 60: 122-123.(講要)
福吉賢三・菅 康弘	2015	秋作バレイショの有機栽培で発生する害虫および土着天敵の発生動向.	九州病虫研報 61: 95.(講要)
梶田泰司	1965	クワコナカイガラムシの代用寄主としてのカボチャおよびジャガイモについて.	九州大農学芸雑誌 22(1): 89-93.
金澤喜代治	1890	馬鈴薯害虫豫防法.	農業雑誌 15(16)(375): 252.
木村 裕	2000	野菜の病害虫(30) バレイショの害虫.	農家の友 52(6): 125-128.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
黒沢 強	1977	“害虫”,「馬鈴薯」(田口啓作・村山大記監修).	グリーンダイセン普及会, 札幌, pp.227-250.
鈴木長一郎	1887	馬鈴薯の害虫を駆除する法.	農業雑誌 12(18)(269): 281.
竹内太郎	1882	馬鈴薯虫害ノ景況.	大日本農會報告 17: 38-40.
内田登一	1942	馬鈴薯の害虫.	柏葉書院.
—	1891	馬鈴薯の害虫撲殺法實驗	農業雑誌 16(18)(413): 286.

671 アブラムシ類・ヨコバイ類

秋野浩二・佐々木睦男	1957	暖地におけるジャガイモアブラムシ類の寄生消長に関する研究.	中国農試報告 3(2): 440-464.
藤本 晃	1979	ほ場における有翅アブラムシの飛来消長と有翅型出現について.	日植病報 45(1): 120.(講要)
藤澤 登	1950	馬鈴薯蚜虫類の発生消長について.	北日本病虫年報 1: 25-27.(講要)
花田 勉	1974	ジャガイモヒゲナガアブラムシのサイズ, インゲン上での生育の違いについて.	北日本病虫研報 25: 66.
堀 松次	1926	ジャガイモヒゲナガアブラムシに関する調査.	北海道農事試報告 17: 51-83.
堀口治夫・今森俊一・木村 宏	1967	バレイショおよびテンサイに対する殺虫剤の土壌施用.	北日本病虫研報 18: 10.
五十嵐良造・伊藤春男・和泉昭四郎・川村邦夫・高橋清一	1967	ダイシストンおよびPSP-204粒剤のバレイショおよびその後作物に対する影響.	北日本病虫研報 18: 15.
今村俊一	1966	バレイショに寄生するモモアカアブラムシの色彩と有翅虫出現との関係.	北日本病虫研報 17: 82.
稲泉三丸	1968	ジャガイモに寄生するアブラムシ類の発生消長に影響する諸要因について.	応動昆 12(1): 10-17.
石谷正博・佐藤信雄	1987	ジャガイモヒゲナガアブラムシの雄虫出現に及ぼす光周期の影響.	北日本病虫研報 38: 190.(講要)
石谷正博・佐藤信雄	1988	ジャガイモヒゲナガアブラムシ産雌虫・雄虫の野外における出現時期.	北日本病虫研報 39: 262.(講要)
石谷正博	1989	青森県と北海道のジャガイモヒゲナガアブラムシにおける二・三の生態的差異.	北日本病虫研報 40: 198.(講要)
石谷正博	1991	ジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅胎成虫雌虫出現に及ぼす温度, 日長及び密度の影響.	北日本病虫研報 42: 196.(講要)
伊藤清光	1999	ジャガイモのアブラムシ群に対する天敵ヒメハナカメムシ類の働きとその生態.	植防 53(12): 490-493.
伊藤清光・古川勝弘・大久保利通	2005	殺虫剤削減による土着天敵の働きを活かした北海道でのジャガイモのアブラムシ類防除.	応動昆 49(1): 11-12.
伊藤清光・古川勝弘	2009	殺虫剤無散布ジャガイモ圃場でのアブラムシ類および捕食性天敵類の発生とイモの収量.	応動昆 53(2): 45-51.
伊藤佳信・永沢 実	1954	ワタアブラムシ並びにモモアカアブラムシに対する Systox 及び Pestox III の効果.	植防 8(6): 252-255.
岩崎暁生・和田由紀夫	2000	北海道網走地方のジャガイモにおけるワタアブラムシの合成ピレスロイド系薬剤感受性低下個体群の発生.	北日本病虫研報 51: 238-241.
梶野洋一・手塚 浩	1969	北海道各地域の馬鈴薯アブラムシの発生消長についての一考察.	北日本病虫研報 20: 83.
梶野洋一・手塚 浩	1969	馬鈴薯アブラムシの有翅型の出現要因について I 有翅型出現に及ぼす飼育密度の影響.	北日本病虫研報 20: 84.
梶野洋一・手塚 浩	1969	馬鈴薯アブラムシの有翅型の出現要因について II 有翅型出現に及ぼす老熟葉の影響.	北日本病虫研報 20: 85.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
梶野洋一	1971	ジャガイモヒゲナガアブラムシの生態に関する研究 第1報 発育, 繁殖および活動.	北海道立農試集報 23: 98-104.
梶野洋一	1971	ジャガイモヒゲナガアブラムシの生態に関する研究 第2報 有翅型出現の要因.	北海道立農試集報 24: 25-32.
梶野洋一	1973	ジャガイモヒゲナガアブラムシの生態に関する研究 第3報 ジャガイモにおける寄生消長および寄生部位.	北海道立農試集報 27: 7-14.
梶野洋一	1974	ジャガイモヒゲナガアブラムシの生態に関する研究 第4報 産卵.	北日本病虫研報 25: 18-21.
柿崎昌志	1989	ジャガイモのチューリップヒゲナガアブラムシに対する各種殺虫剤の防除効果.	北日本病虫研報 40: 126-127.
加藤陸奥雄	1953	バレイショの種々な品種とアブラムシ群集の動態.	生態学研究 13: 137-140.
川崎倫一	1965	“9. アブラムシ類, 10. キマダラヒロヨコバイ”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.74-86., 87-88.
小林政文	2013	ジャガイモヒゲナガアブラムシの発育・増殖の変異性.	植防 67(1): 35-38.
桑山 覚	1947	バレイショのアブラムシとその防ぎ方.	北農 14: 117-122.
松本 蕃	1965	馬鈴薯のアブラムシ.	北海道の農薬 2(1): 32-39.
松本 蕃	1965	PSP 204粒剤によるアブラムシの防除.	農薬春秋 19: 16-20.
松本 蕃	1965	浸透性殺虫剤のジャガイモへの利用.	農耕と園芸 20(9): 36.
松島健一	1983	馬鈴薯に寄生するアブラムシ類に関する考察.	(植防退官記念誌・自費出版), 23p.
水越 亨・花田 勉・橋本庸三	1988	ジャガイモヒゲナガアブラムシ産卵雌虫の出現に関わる日長条件 I 産卵雌虫の発生状況.	北日本病虫研報 39: 194-196.
水越 亨	1988	ジャガイモヒゲナガアブラムシ産卵雌虫の出現に関わる日長条件 II 短日を受けた前2世代の産卵雌虫出現に及ぼす影響.	北日本病虫研報 39: 197-198.
水越 亨	2002	ジャガイモ圃場と雑草地に設置した黄色水盤トラップにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅胎生雌虫の誘殺消長.	北日本病虫研報 53:191-193.
Moritsu, M.	1966	Aphids feeding on potatoes in Japan.	Bull.Fac. Agric., Yamaguchi Univ. 17: 873-890.
中須賀孝正	1979	モモアカアブラムシの色彩型別クローン単位殺虫剤感受性検定.	九州病虫研報 25: 122-125.
中須賀孝正・織田真吾・広谷 弘	1983	アブラムシ類の直接吸汁によるジャガイモの被害.	九州病虫研報 29: 180-181. (講要)
中田正彦・石野洋二	1966	ダイシストン5%粒剤のTop dressingによる資料(第1報).	農薬研究 13(2): 75-81.
中田正彦	1968	ダイシストン5%粒剤のTop dressingによる資料(第5報).	農薬研究 14(4): 104-107.
西尾美明・今林俊一	1954	馬鈴薯に寄生するアブラムシの発生活消長について.	北海道農試彙報 66: 42-48.
農林水産技術会議	1967	浸透性有機燐剤の土壌施用によるバレイショアブラムシ類の防除.	新しい技術 4: 47-48.
小笠原秀夫・藤沢 登・中谷直也	1950	馬鈴薯に寄生する蚜虫品種間の寄生消長.	農及園 25(5): 419-420.
奥田裕志・鳥倉英徳	1990	ジャガイモのワタアブラムシの薬剤感受性について.	北日本病虫研報 41: 154-156.
織田真吾・富尾孝雄・中須賀孝正	1984	ジャガイモにおけるワタアブラムシの防除効果.	九州農業研究 46: 128.
西東 力・久保田 栄・山内寅好・高塚克己	1987	バレイショにおけるワタアブラムシの薬剤感受性と防除.	関東東山病虫年報 34: 155-156.
榊原充隆	2010	ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する高CO ₂ の影響.	植防 64(7): 429-433.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐藤 謙・手塚 浩	1967	バレイショのアブラムシに対する土壌施薬の効果について.	北日本病虫研報 18: 11.
佐藤利朗・芦立雅夫・大沢守一・佐藤力郎	1989	バレイショにおけるアブラムシ類の発消長.	東北農業研究 42: 159-160.
佐藤利朗・田口明広・大沢守一・佐藤力郎	1993	バレイショに寄生するアブラムシ類の有翅型出現と寄生密度の関係.	北日本病虫研報 44: 219. (講要)
関山英吉	1962	キマダラヒロヨコバイの生態ならびに防除.	植防 16(7): 271-273.
末永 一	1943	馬鈴薯に寄生する蚜蟲の種類.	植物及動物 11(5): 379-382.
高田 肇	1991	ワタアブラムシの生物学 —研究の現状と展望 (1).	植防 46(3): 127-132.
高比良綾子・高田裕司・寺本 健	2013	諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発 6) 春作栽培ジャガイモ寄生アブラムシ類とその土着天敵に対する雑草地及びインセクタープラントの影響.	九州病虫研報 59: 124. (講要)
高倉重義・富岡 暢・高桑 亮	1967	土壌施薬剤添加肥料によるバレイショアブラムシの省力防除について.	北日本病虫研報 18: 14.
高岡市郎	1960	モモアカアブラムシの生態に関する研究 —生活環における多型を中心として—.	秦野たばこ試報告 48: 1-95.
高岡市郎	1969	モモアカアブラムシの消化器系, 神経系および内分泌器官に関する細胞組織学的研究.	秦野たばこ試報告 65: 93-124.
富雄孝雄	1987	ジャガイモに寄生する3種アブラムシの最大増殖速度.	九州病虫研報 33: 243. (講要)
富尾孝雄・織田眞吾	1990	ジャガイモのアブラムシ類による吸汁害と防除法.	長崎総農試研報(農業) 16: 33-44.
鳥倉英徳	1983	北海道におけるバレイショのワタアブラムシについて.	北日本病虫研報 34: 47-49.
鳥倉英徳	1984	ジャガイモヒゲナガアブラムシの萌芽期ジャガイモ畑への侵入, 分布および移動.	北日本病虫研報 35: 115-121.
鳥倉英徳・兼平 修・奥田裕志	1989	アセフェート剤散布によるジャガイモのワタアブラムシの異常多発.	北日本病虫研報 40: 128-131.
鳥倉英徳	1993	馬鈴薯のワタアブラムシ寄生密度の簡易推定法 1. 無翅虫と幼虫.	北日本病虫研報 44: 114-116.
鳥倉英徳	1993	馬鈴薯のワタアブラムシ寄生密度の簡易推定法 2. 有翅虫.	北日本病虫研報 44: 117-119.
鳥倉英徳	1993	道東北部における馬鈴薯のアブラムシ類の発消長.	北日本病虫研報 44: 120-123.
鳥倉英徳	1994	ワタアブラムシの吸汁によるジャガイモの減収.	北日本病虫研報 45: 153-155.
筒井 等・早川博文・後藤千枝・原 令幸・山島由光	1987	少量散布によるバレイショのジャガイモヒゲナガアブラムシ防除.	北日本病虫研報 38: 117-120.
筒井 等・早川博文・後藤千枝・石田茂樹・伊吹俊彦	1988	微量散布によるバレイショのジャガイモヒゲナガアブラムシ防除.	北日本病虫研報 39: 199-202.
植松綾子・陣野泰明・寺本 健	2015	諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発 10) 春作ジャガイモ寄生アブラムシ類に対するインセクタープラントの土着天敵類の効果.	九州病虫研報 61: 94-95. (講要)
植松綾子・陣野泰明・寺本 健	2016	諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発 11) 春作ジャガイモ寄生アブラムシ類に対するインセクタープラントの有効性.	九州病虫研報 62: 145. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
渡辺 直・関塚昭明・西尾 清	1971	ジャガイモ圃場における3種のアブラムシの増殖と分布.	植防研報 9: 19-26.
(矢野勇夫・桜井 寿)	1966	馬鈴しょに寄生するアブラムシに関する調査報告.	馬鈴薯原原種農場研報 5: 1-28.
安田壮平・坂口荘一	1966	暖地における馬鈴薯寄生アブラムシ特にバレイショアブラムシおよびニワトコフクレアブラムシの識別点.	九州病虫研報 12: 9-13.
安田壮平・坂口荘一	1966	暖地バレイショのウイルス病防除に関する研究 第5報 各種浸透移行性殺虫剤のアブラムシに対する抑制効果とその利用.	九州病虫研報 12: 13-15.
安田壮平・坂口荘一	1967	暖地におけるバレイショアブラムシの発生と寄生植物について(予報).	九州農業研究 29: 111.
余吾卓也	1952	馬鈴薯蚜虫の寄生消長について.	中国四国農業研究 2: 69-70.
余吾卓也	1953	馬鈴薯蚜虫の発生消長と次代生産力.	農業技術 8(6): 33-34.
横溝徹世敏・寺本 健	1991	ジャガイモ寄生ワタアブラムシの薬剤感受性.	九州病虫研報 37: 117-121.

672 ジャガイモガ

安部春吉	1955	「じゃがいもが」のくん蒸試験.	植防 9(10): 412.
合田健二・本郷 武・木嶋利男・小熊純一	1975	栃木県におけるナシチビガ, ジャガイモガ, ヨナジラミの一種の新発生.	関東東山病虫年報 22: 108.
深沢永光	1968	ジャガイモガ幼虫に対する薬剤の効果.	農薬 15(4): 49-51.
Goto, M. and Akiyama, H.	1972	Evaluation of four organophosphorus insecticides for control of <i>Phthorimaea operculella</i> Zeller on stored seed potato tubers.	Res. Bull. Plant Protection Service Japan 10: 37-38.
日高 醇・高岡市郎	1957	ジャガイモガの寄生蜂ジャガイモガトビコバチ(新称)について.	植防 11(3): 107-111.
樋口泰三	1958	ジャガイモガの生態並びに防除に関する研究.	長崎農試研報集(創立60周年記念号): 274-285.
樋口泰三・板山俊夫	1959	じゃがいもがの発育に及ぼす温度について.	九州農業研究 21: 138-139.
樋口泰三	1967	ジャガイモガの生態と防除法.	農及園 42(3): 486-488.
樋口泰三・中須賀孝正	1971	各種粉剤の粉衣によるジャガイモガ幼虫の食入防止について.	九州農業研究 33: 106.
飯島 鼎	1955	馬鈴薯・茄子タバコなどの新害虫ジャガイモガ.	農業世界 50(3): 126-
飯島 鼎・中田正彦・井上 亨・堀 斉	1956	本年の「じゃがいもが」防除対策について.	植防 10(5): 195-198.
井上 平	1975	春秋二期作ジャガイモにおけるジャガイモガの発生消長並びに葉巻病の薬剤防除がそれに及ぼす影響.	九州病虫研報 21: 20-22.
井上 平・山崎次吉	1980	貯蔵ジャガイモのジャガイモガ被害を回避する二, 三の方法.	九州病虫研報 26: 182.(講要)
井上平・山崎次吉	1983	貯蔵ジャガイモのジャガイモガ被害の回避.	長崎総農試研報(農業) 9: 15-21.
井上 亨	1958	5年目を迎えたじゃがいもがの緊急防除について.	植防 12(7): 325-326.
河合克巳	1956	ジャガイモガの緊急防除.	農及園 31(6): 837-840.
川崎倫一	1969	ジャガイモガの生態と防除法.	農及園 44(5): 841-844.
小泉憲治	1954	新しい害虫ジャガイモガ.	植防 8(11): 463-469.
小泉憲治	1955	ジャガイモガ <i>Gnorimoschema operculella</i> (ZELLER) の発育に及ぼす恒温の影響.	岡山大農学術報告 7(1): 36-45.
小泉憲治	1995	“8. ジャガイモガ”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 麟 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.66-73.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
小泉憲治・佐々木 隆	1966	ジャガイモガ <i>Phthorimaea operculella</i> Zeller の在来天敵(予報).	植防研報 4: 66-69.
小松 信・川島嘉内・河辺信雄	1971	いわき地方におけるジャガイモガの発生について.	北日本病虫研報 22: 57.(短報)
門司植物防疫所	1956	九州地区におけるじゃがいもが防除の経過 第2報.	門司植防資料 15: 1-172. (とう写印刷)
三宅利雄	1955	新輸入害虫ジャガイモガ.	農業技術 10(1): 37-38.
三宅利雄・木村義典・松井俊治	1956	日本に於けるジャガイモガの生態と防除法.	植防 10(5): 199-203.
中須賀孝正	1980	性フェロモンによるジャガイモガの発消長調査.	今月の農薬 24(9): 1-5.
中須賀孝正	1980	性フェロモンによるジャガイモガ雄成虫誘引に及ぼす気象要因.	九州病虫研報 26: 18.(講要)
中須賀孝正	1982	ジャガイモの品種及び塊茎予措法がジャガイモガの被害に及ぼす影響.	九州農業研究 44: 116.
中須賀孝正・織田眞吾	1983	BT剤処理による貯蔵ジャガイモのジャガイモガ被害防止の可能性.	九州農業研究 45: 123.
中須賀孝正	1983	性フェロモン利用によるジャガイモガの発生予察と防除法に関する研究 第1報 性フェロモンのジャガイモガの発消長調査への利用.	長崎総農試研報(農業) 9: 23-40.
中田正彦	1954	ジャガイモガの緊急防除.	植防 8(12): 507-509.
小野知洋・弥富喜三・斎藤哲夫	1972	ジャガイモガの配偶行動.	応動昆 16(1): 51-53.
小野知洋・斎藤哲夫	1973	ジャガイモガの交尾時刻と交尾に対する照明条件の影響.	応動昆 17(3): 127-131.
Ono, T.	1974	The scale as a factor inducing male's copulation attempt in the potato tuber moth, <i>Phthorimaea operculella</i> (Lepidoptera : Gelechiidae).	Botyu-Kagaku 39(3): 93-95.
小野知洋	1977	ジャガイモガの交尾における各行動の日周期性.	防虫科学 42(4): 203-206.
小野知洋	1978	ジャガイモガの触角の構造と機能.	金城学院大学論集(家政学編) 18: 65-71.
小野知洋	2009	ジャガイモガの性フェロモントラップによる捕獲数の周年変化.	応動昆 32(1): 77-79.
大島俊市・内藤孝道	1955	新害虫ジャガイモガの生態と防除法.	農及園 30(10): 1342-1344.
大島俊市	1959	<i>Spicaria rubido-purpurea</i> Aoki のジャガイモガに対する寄生性(予報).	農学研究 47(1・2): 51-57.
大島俊市・赤沢俣紀	1980	ジャガイモガの天敵微生物 <i>Paecilomyces lilacinus</i> (THOM) SAMSON (紫赤きょう病菌)に関する研究.	岡山たばこ試験場報告 41: 73-106.
清水四郎	1960	じゃがいもが緊急防除その後.	植防 14(10): 444-448.
杉山恵太郎・水井陽介	2009	ジャガイモガに対する各種薬剤の殺虫効果.	関東東山病害虫研報 56: 125-126.
立川哲三郎	1970	ジャガイモガの天敵2種のトビコバチ.	植防 24(12): 523-525.
立川哲三郎	1974	ジャガイモガトビコバチの学名と和名.	植防 28(12): 489-490.
高島権三	1965	新害虫ジャガイモガの侵入.	農業 971: 6-8.
富尾孝雄・織田眞吾	1984	着色ジャガイモガ雄成虫を用いた処女雌トラップの捕獲力評価.	九州病虫研報 30: 109-112.
富尾孝雄	1986	ジャガイモガ性フェロモン構成成分の最適混合比.	九州病虫研報 32: 140-142.
浦上山太・坂本清恒・中須賀孝正	1957	九州地区におけるじゃがいもが防除の経過 第3報.	門司植防資料 18: 1-212. (とう写印刷)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
浦上山太・坂本清恒・日野隆之	1958	摂氏5° 附近におけるジャガイモガ老熟幼虫のメチルプロマイドガスによる殺虫効果.	九州病虫研報 4: 15-17.
和気 彰・山本 弘・上田 功・池原秀幸	1968	ジャガイモガ防除剤としての燐化水素の検討.	植防研報 6: 32-36.
和気 彰・池原秀幸	1968	ジャガイモガトビコバチの放飼後における分散.	植防研報 6: 37-38.
和気 彰・池原秀幸	1969	最近導入されたジャガイモガ寄生蜂 <i>Copidosoma uruguayensis</i> Tachikawa に関する2, 3の知見 I <i>C. koehleri</i> Blanchard との産卵選好温度の比較および交雑の可能性.	植防研報 7: 23-25.
Watanabe, J., Orrillo, M. and Watanabe, K.N.	1999	Evaluation of <i>in vitro</i> chromosome - doubled regenerates with resistance to potato tuber moth [<i>Phthorimaea operculella</i> (Zeller)].	Plant Biotech. 16: 225-230.
矢部長順	1956	じゃがいもがに関する研究.	門司植防資料 16: 1-57.
Yamaoka, R., Fukami, H. and Ishii, S.	1976	Isolation and identification of the female sex pheromone of the potato tuberworm moth, <i>Phthorimaea operculella</i> (Zeller).	Agric. Biol. Chem. 40(10): 1971-1977.

673 そのほかの害虫・害獣

遠藤和衛	1947	馬鈴薯の害虫テントウムシダマシの防ぎ方. (農民叢書第20号, 農林省農政局編).	農業技術協会, 東京, 23p.
遠藤和衛	1951	馬鈴薯偽瓢虫の防除.	農及園 26(1): 155-158.
遠藤 正・川島嘉内	1955	オオニジュウヤホシテントウの発生予察に関する基礎研究 1. オオニジュウヤホシテントウの産卵数と前年の馬鈴薯疫病発生との関係.	北日本病虫研報 6: 99.(講要)
福居文男・小林幸男	1957	馬鈴薯疫病とオオニジュウヤホシテントウの防除試験.	北日本農薬研報 6: 70-71.(講要)
福井農試	1929	馬鈴薯偽瓢虫駆除試験.	病蟲雑 16(6): 361-364.
福島正三	1947	昆虫の活動消長と環境条件 第I報 オオニジフヤホシテントウ成虫の日週活動に就て.	生物 2(4): 105-109.
福島正三	1948	昆虫の活動消長と環境条件 第II報 オオニジフヤホシテントウ成虫の摂食活動に及ぼす照明の影響に就て.	生物 3(2): 72-74.
福島正三	1949	昆虫の活動消長と環境条件 第III報 馬鈴薯畑地の畦間微細気象とオオニジフヤホシテントウ成虫の活動との関係.	生物 4(3): 96-103.
福島正三	1949	昆虫の活動消長と環境条件 第VIII報 畦幅を異にする馬鈴薯畑地の畦間微細気象がオオニジフヤホシテントウ成虫の摂食活動に及ぼす影響.	北薯連資料 No.9: 1-6.
福島正三	1951	オオニジュウヤホシテントウの加害防止策としての馬鈴薯の囲繞栽培.	農及園 26(10): 1103-1104.
福島正三	1955	馬鈴薯畑における昆虫群集の日変化について.	北日本病虫年報 6: 98.(講要)
福島正三	1956	バレイショ単作畑とトウモロコシの間作畑における昆虫群集の動態.	北日本病虫年報 7: 110-111.(講要)
花田 勉	1981	ナストビハムシ幼虫のジャガイモへの加害について.	北日本病虫研報 32: 30-31.
北海道農試	1926	大廿八星瓢虫防除試験及調査.	北海道農試概要(昭和元), p.121.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
井上 平	1969	数種殺虫剤の馬鈴薯のアブラムシ類とニジュウヤホシテントウムシに対する殺虫効力 (1).	九州農業研究 31: 112.
井上 平	1976	春秋二期作ジャガイモに発生する鱗翅目昆虫について.	九州病虫研報 22:164.(講要)
井上 平	1977	アセフェートの散布によるジャガイモ鱗翅目害虫の防除.	九州病虫研報 23: 125-128.
井上 平	1977	春作ジャガイモにおけるニジュウヤホシテントウの薬剤防除時期.	九州農業研究 39: 75.
井上 平	1978	払い落しによって採集された春秋二期作ジャガイモの鱗翅目害虫.	九州農業研究 43: 100.
井上 平	1978	ポリマルチ栽培の春作ジャガイモにおけるヨトウガの早期多発性.	九州農業研究 44: 101
井上 平	1986	“7. ジャガイモの害虫”, I 普通作物の害虫, 作物病虫害ハンドブック(梶原敏宏ほか編).	養賢堂, 東京, pp.848-855.
井上 寿・岩倉静男	1981	土壌施肥によるジャガイモ加害ナストビハムシの防除効果について.	北日本病虫研報 32: 32.
井上 寿・佐藤繁雄	1981	ジャガイモ加害のナストビハムシに対する殺虫剤の防除効果について.	北日本病虫研報 32: 33.
岩田俊一	1955	ジャガイモ畑におけるオオニジュウヤホシテントウ成虫の移動分散性について.	日生態会誌 5(2): 49-53.
陣内宏亮	1998	冬春ジャガイモの輪作体系におけるサツマイモの定植時期とコメツキムシ類幼虫による加害程度について.	九州病虫研報 44: 122-123. (講要)
鹿児島農試	1927	馬鈴薯の偽瓢蟲驅除試験.	鹿児島農試功程(昭和2).
梶田泰司	1965	クワコナカイガラムシの代用寄主としてのカボチャおよびジャガイモについて.	九大農学芸雑誌 22(1): 89-93.
川島嘉内	1955	オオニジュウヤホシテントウの発生予察に関する基礎研究 第1報 形態に及ぼす幼虫の食餌の影響について.	北日本病虫研報 6: 99-100. (講要)
川島嘉内	1955	オオニジュウヤホシテントウの発生予察に関する基礎研究 成虫の大きさより見た発生消長への一考察(予報).	北日本病虫研報 6: 101-102. (講要)
川島嘉内	1956	オオニジュウヤホシテントウの発生予察に関する基礎研究 第3報 卵塊数と前年度の湿度との関係.	北日本病虫研報 7: 109-110. (講要)
Min-Sik Kim, Que Lan	2011	Larvicidal activity of α -mangostin in the colorado potato beetle, <i>Leptinotarsa decemlineata</i> .	J. Pesticide Sci. 36(3): 370-375.
小林 尚・桂 静江	1968	殺虫剤の土壌施用に関する研究 第3報 浸透性有機リン剤のバレイショのオオニジュウヤホシテントウ防除効果.	応動昆 12(1): 1-9.
小嶺正敬・松尾和敏	2005	長崎県のジャガイモにおけるアザミウマ類の寄生状況.	九州病虫研報 51: 53-59.
小山長雄	1957	オオニジュウヤホシテントウ幼虫の食性およびその飼育に関する知見.	防虫科学 22(1): 86-94.
黒沢 強	1957	オオニジュウヤホシテントウの発育に及ぼす日長の影響(予報).	北日本病虫年報 8: 82-85.(講要)
黒沢 強	1958	オオニジュウヤホシテントウの産卵とジャガイモの萌芽期との関係.	北日本病虫年報 9: 84-86.(講要)
森本尚武・太田八郎	1972	八岳山麓馬鈴薯畑に大発生したキスジコガネ <i>Phyllopertha irregularis</i> Waterhouse の生態.	馬鈴薯原原種農場研報 8: 1-8.
盛田寿太郎	1923	馬鈴薯偽瓢蟲の驅除.	病蟲雑 10(3): 131-145.
永野道昭・樋口泰三・蒲生宣郷	1967	長崎県におけるニジュウヤホシテントウの発生消長について.	九州農業研究 29: 112.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
長野農試	1924	馬鈴薯偽瓢蟲の驅除試験成績.	病蟲雜 11(12): 685-688.
中須賀孝正	1978	チャノホコリダニのジャガイモへの加害.	九州病虫研報 24: 127-130.
永田利美	1965	“ 11. その他の病害虫”, 馬鈴薯の病害虫とその防除, [種馬鈴薯技術ハンドブック](岩切 嶙 編),	日本植物防疫協会, 東京, pp.89-93.
中村浩二	1976	ニジュウヤホシテントウの生態学的研究 I 野外個体群の生命表と死亡過程の分析.	日生態会誌 26(2): 49-59.
中田正彦・広瀬健吉・生熊典省	1970	テントウムシダマシによる葉部損傷がジャガイモの形成におよぼす影響.	農薬研究 17(2): 76-81.
中田唯文	1994	北海道のジャガイモ圃場におけるオンシツコナジラミ成虫の発消長.	北日本病虫研報 45:156-157.
中谷真也・小笠原秀雄	1950	馬鈴薯に寄生する害虫 [第1報].	育種と農芸 5(10):37.
大橋義躬・坂本与市・堤 正明・木村 登	1972	ハリガネムシに対する数種薬剤の効果 (予報).	北日本病虫研報 23: 138. (講要)
大竹義道	1893	馬鈴薯害虫「テナウムシ」驅除法.	農業雜誌 18(22)(489) : 339-340.
岡本半次郎	1909	第五章 馬鈴薯の害虫. («實用害虫驅除予防法»)	朝日商会, 札幌, pp.58-60.
織田真吾・広谷 弘・中須賀孝正	1982	ジャガイモにおけるミナミキイロアザミウマの薬剤防除.	九州病虫研報 28: 142-144.
織田真吾	1985	ジャガイモにおけるミナミキイロアザミウマの被害.	九州病虫研報 31: 153-155.
織田真吾	1986	ジャガイモにおけるタネバエの被害.	九州病虫研報 32: 143-144.
酒井章雄・早河広美・呉羽好三・湯本克三	1967	ジャガイモ畑における野その生息実態と被害について.	関東東山病虫年報 14: 126.
坂本与市・大橋義躬・堤 正明	1973	ハリガネムシに対する数種薬剤の効果.	北日本病虫研報 24: 18-22. (講要)
櫻井 清・藤森信四郎・旭川清一	1952	BHC粉剤の土壤混入による馬鈴薯針金虫防除.	農及園 27(1): 87-88.
櫻井 清	1952	北海道に於てジャガイモを害する針金虫類とその防除.	応用昆虫 8: 34-41.
櫻井 清・藤森信四郎・旭川清一	1952	馬鈴薯を害するハリガネムシとその防除法.	北農 19(4): 137-144.
櫻井 清	1952	馬鈴薯針金虫防除のBHC使用法に関する考察.	北日本病虫年報 3: 126-127. (講要)
櫻井 清・堤 正明・旭川清一	1953	馬鈴薯を害するハリガネムシに対する高 γ 濃度BHC粉剤並びに有機製剤の防除効果.	北農 20(5): 109-122.
櫻井 清・堤 正明・堀田豊	1955	馬鈴薯を害するケラとその乗除法.	北農 22(5): 157-167.
桜井 清・堤 正明・堀田豊	1957	新有機塩素剤による馬鈴薯のハリガネムシ及びケラの防除.	北日本農薬研報 6: 71-72. (講要)
佐本榮次郎	1932	馬鈴薯の大害虫 偽瓢蟲の経過習性及防除法に関する研究 (一).	大日本農會報 620: 20-24.
佐本榮次郎	1932	馬鈴薯の大害虫 偽瓢蟲の経過習性及防除法に関する研究 (二).	大日本農會報 622: 38-58.
佐藤仁彦・池本 始	1993	山梨県におけるマダラテントウ属 (<i>Epilachna</i>) 3種の分布.	応動昆 37(3): 183-185.
佐藤仁彦・池本 始	1999	ジャガイモのマダラテントウ類.	植防 53(4): 130-133.
撰西農林協会(編)	1898	第廿一章 馬鈴薯害虫. (第二編 害虫, 「害虫驅除豫防篇»)	同文館, 東京, pp.83-85.
白神虎雄	1951	瓜類・馬鈴薯の害虫防除.	蔬菜 2(1951-12): 49-52.
田辺忠一	1923	馬鈴薯の害虫と「ボルドウ」液.	病蟲雜 10(1): 46-47.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1932	砒酸鉛の大二十八星瓢蟲に對する効果 (一).	病蟲雜 19(2): 124-130.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1932	砒酸鉛の大二十八星瓢蟲に對する効果(二).	病蟲雜 19(3): 208-214.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(一).	病蟲雜 21(7): 559-566.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(二).	病蟲雜 21(8): 642-649.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(三).	病蟲雜 21(9): 712-718.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(四).	病蟲雜 21(10): 798-805.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(五).	病蟲雜 21(11): 871-874.
田辺忠一・関谷一郎・熊谷又吉	1934	大二十八星瓢蟲の生態並に駆除豫防法(六).	病蟲雜 21(12): 988-959.
田中 学	1953	馬鈴薯塊茎上に於けるルビーロウムシ及びツノロウムシの飼育 第一報 ルビーアカヤドリコバチの大量人工増殖方法に関する研究.	九州農試彙報 2: 55-63.
鳥倉英徳	1985	ジャガイモモグリハナバエの生態について.	北日本病虫研報 36: 50-52.
内田登一・渡辺千尚	1946	馬鈴薯の害虫オホニジウヤホシテンタウの分布に就て.	生物 1(1).
横溝徹世敏・永野道昭	1979	春作ジャガイモを加害したヤサイゾウムシの生態と防除.	九州病虫研報 25: 87-90.
湯浅啓温	1947	“テントウムシダマン(偽瓢虫)”, 「甘藷馬鈴薯の病虫害」(中島 汀 編).	日本甘藷馬鈴薯(株), 東京, pp.70-78.
湯浅啓温	1950	“テンタウムシダマン(偽瓢虫)”, 「いも類の病虫害と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.125-136.

680 検疫・防除
681 植物検疫

相原史典	2010	植物防疫法に基づく種馬鈴しょ検疫におけるジャガイモシストセンチュウの取扱.	いも類振興情報 105: 7-10.
浅間和夫	2001	土つきばれいしょの輸入がもたらすもの.	いも類振興情報 68: 7-8.
浅野茂美	1953	種馬鈴薯の検疫について.	農業北海道 5(9): 22-25.
井上 亨	1951	種馬鈴薯の検査について.	防疫時報 24: 18-22.
井上 亨	1953	種馬鈴薯の検疫と輪腐病.	植防 7(7): 219-220.
井上 亨	1955	種馬鈴薯の国営検査.	植防 9(4): 158-161.
上遠 章	1947	“外海より侵入の虞ある甘藷馬鈴薯の害虫”, 「甘藷馬鈴薯の病虫害」(中島 汀 編).	日本甘藷馬鈴薯(株), 東京, pp.160-170.
上遠 章	1950	“外海より侵入の虞ある甘藷, 馬鈴薯の害虫”, 「いも類の病虫害と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.259-270.
木村 茂	1988	日本への侵入を恐れている病虫害 ジャガイモやせいも病.	農薬研究 34(3): 25-30.
栗原金光	1999	日本における種馬鈴しょ検疫.	いも類振興情報 59: 5-10.
桑名伊之吉	1932	馬鈴薯の大害虫 カロラド馬鈴薯甲蟲に就て英國政府の條例.	大日本農會報 625: 28-33.
松原芳久・劔持秀禧・小林儀信	1977	種馬鈴しょ第2期ほ場検査におけるウイルス病を対象とするほ場抽出率についての一考察 [I].	横浜植物防疫ニュース 501: 4-5.
松原芳久・劔持秀禧・小林儀信	1977	種馬鈴しょ第2期ほ場検査におけるウイルス病を対象とするほ場抽出率についての一考察 [II].	横浜植物防疫ニュース 503: 4-5.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
松原芳久・剣持秀禧・小林儀信	1977	種馬鈴しょ第2期ほ場検査におけるウイルス病を対象とするほ場抽出率についての一考察 [Ⅲ].	横浜植物防疫ニュース 504: 4-5.
松下陽介・津田新哉	2013	我が国への侵入を危惧する4種ポスピウイロイドの主要作物における病原力比較.	日植病報 79(3): 218.(講要)
南 邦衛	1977	“検疫”,「馬鈴薯」(田口啓作・村山大記監修).	グリーンダイセン普及会,札幌, pp.303-324.
水田隼人・剣持秀禧	1977	種馬鈴しょにおける次代のウイルス発病率と環境の関係について (I, II).	横浜植物防疫ニュース 497: 4-5., 498: 3-5.
森 信義	1937	植物検疫の概要(二).	病蟲雑 24(4): 295-262.
森 信義	1940	コロラド馬鈴薯甲虫に就て.	病蟲雑 27(4): 261-271.
永田利美	1965	“Ⅱ 海外から侵入のおそれある重要病害虫”,「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切嶺編).	日本植物防疫協会,東京, pp.95-103.
永田利美	1955	ジャガイモ癌腫病.	植防 9(12): 493-494.
中島 信	1951	植物防疫法と種馬鈴薯検査.	農村 29(6): 28-29.
西尾 健・木村 茂	1976	輸入検疫中の無病徴ジャガイモから分離されたTobacco vein necrosis virusについて.	日植病報 42(3): 382.(講要)
西尾 健・加藤幹雄・小林敏郎・剣持秀禧・及川 巖・松濤美文	1979	検疫中のジャガイモからの Potato spindle tuber viroid 検出法の検討.	日植病報 45(1): 129.(講要)
西尾 健・加藤幹雄・小林敏郎・剣持秀禧・及川 巖・松濤美文	1980	検疫中のジャガイモからの Potato spindle tuber viroid 検出法の検討.	植防研報 16: 1-9.
小野 仁	2011	さつまいも, ばれいしょの輸入植物検疫.	でん粉情報 50: 1-4.
三枝敏郎	1964	植物検疫上重要なゴールデンネマトーダの類別法.	植防 18(7): 283-284.
清水四郎	1965	“Ⅰ 種馬鈴薯の生産と検疫状況”,「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切嶺編).	日本植物防疫協会,東京, pp.1-14.
尊田望之	1984	日本への侵入を恐れている病害虫 コロラドハムシ.	農薬研究 31(2): 55-59.
山下 博	1999	種苗として輸入されるイモ類の検疫とその病害虫.	いも類振興情報 58: 14-17.
山崎英明・俣木利昭・末次哲雄	1987	種馬鈴しょ検疫とウイルス病の検定について.	九州病虫研報 33: 235.(講要)
横浜植物防疫所	1969	種馬鈴しょ検疫対象病害解説(その1).	横浜植物防疫所, 20p.
横浜植物防疫所	2010	種馬鈴しょ検疫制度の現状と課題について.(特集 ばれいしょ)	特産種苗 7: 5-6.
—	1960	種馬鈴しょ検疫十周年記念式典の開催.	植防 14(12): 556-557.

682 防除

阿部米吉	1978	馬鈴しょ除草剤センコルの使い方と効果.	農薬研究 25(2): 46-51.
秋田農試	1926	馬鈴薯病害豫防試験.	秋田農試業功 14: 148.
秋田農試	1939	馬鈴薯病害蟲防除に関する試験.	病蟲雑 26(9).666.
青森農試	1912	病理試験業務工程 一馬鈴薯の収穫量に対する「ボルドー合剤」の効果試験.	青森農試報告(明治45).
青野桂之・岩間和人・実山 豊・市川伸次	2007	バレイショ栽培の病害虫防除における電解水の評価.	育種・作物学会北海道談話会報 48: 87-88.(講要)
青野桂之・岩間和人・実山 豊・市川伸次	2008	酸性電解水を利用した病害虫防除がバレイショの生育および収量に与える影響.	育種・作物学会北海道談話会報 49: 69-70.(講要)
藤田謙三・土岐昭男	1966	アブラムシ防除のための土壌施薬剤の処理方法 第2報 バレイショのアブラムシ類に対する防除効果.	北日本病虫研報 17: 12.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
福井文男	1953	馬鈴薯病害虫防除に於ける液剤と粉剤との効果比較試験.	北日本病虫年報 4: 96-98.(講要)
半川義行	1978	ECNBとその代謝及びHCBの土壌, バレイショの残留に関する研究.	広島農試報告44: 81-92.
早河広美・林 清道・石原幸雄	1965	ジャガイモ病害虫に対する馬鈴薯粉剤のヘリコプタ散布効果.	関東東山病虫年報 12: 23.
北海道農試	1921	馬鈴薯に対するボルドー合剤撒布試験.	北海道農試報告11: 45-47.
堀 正侃	1946	馬鈴薯の種薯消毒.	農業 775: 23-27.
堀口治夫・今林俊一・木村 宏	1967	バレイショおよびテンサイに対する殺虫剤の土壌施用.	北日本病虫研報 18: 10.
堀口治夫	1983	アブラムシ類防除とアシルメート.	今月の農薬 27(4): 250-251.
市沢龍一	1952	液剤と粉剤との経済効果批判 馬鈴薯における場合.	北日本病虫研報 3: 125-126.(講要)
五十嵐良造・伊藤春男・和泉昭四郎・川村邦夫・高橋精一	1967	ダイシストンおよびPSP-204粒剤のバレイショおよびその後作物に対する影響.	北日本病虫研報 18: 15.
鏑方末彦	1947	“種薯の昇汞及水銀製剤消毒法”, 「甘藷馬鈴薯の病害蟲」.	日本甘藷馬鈴薯(株), 東京, pp.66-69.
池田幸子・小澤 徹・清水基滋・竹中重仁	2006	生物防除微生物 <i>Pythium oligandrum</i> による畑作物病害に対する防除効果.	日植病報 72(4): 270.(講要)
井上 平	1978	ジャガイモのアブラムシ媒介ウイルス病に対するシルバーポリマルチの効果.	九州病虫研報 24: 96-99.
井上 平	1979	ジャガイモ害虫防除農薬の少量化.	長崎総農試研報(農業) 7: 86-99.
岩切 嶺	1952	馬鈴薯の増産管理 病気の正しい防ぎ方.	農業世界 47(5): 84-85.
岩田 勉	1975	いま問題になっている馬鈴薯の病害とその防除.	農及園 50(10): 1253-1257.
川崎倫一・田口俊郎・井上 駿	1961	Methyl Bromide くん蒸によるジャガイモ塊茎の薬害に関する研究.	植防研報 1: 54-83.
小林 尚・奥 俊夫・前田泰生・工藤和一	1966	畑作害虫の省力防除に関する研究 III バレイショに対する土壌施薬方法について.	北日本病虫研報 17: 20.
小林 尚	1967	馬鈴薯害虫の新しい効果的省力防除法.	農及園 42(9): 1415-1416.
小林 尚・奥 俊夫・桂 静江	1967	バレイショに対する土壌施薬方法 (その2).	北日本病虫研報 18: 16.
小林 尚・奥 俊夫・桂 静江	1967	バレイショに対する土壌施薬効果の変動.	北日本病虫研報 18: 23.
小林 尚・桂 静江	1968	殺虫剤の土壌施用に関する研究 第4報 浸透性有機リン剤が土壌の硝酸化成およびバレイショの生育・収量に及ぼす影響.	応動昆 12(2): 53-63.
松本 蕃	1965	浸透性殺虫剤のジャガイモへの利用.	農耕と園芸 20(9): 36-37.
宮城農試	1938	馬鈴薯の銅剤撒布の効果並に撒布法試験.	宮城農試功程(昭和13).
宮沢春水	1940	馬鈴薯病害虫防除の今昔.	北海道農會報(附録澱粉) 11: 471.
村田寿太郎	1954	甘藷・馬鈴薯の病虫害防除.	中央園芸 589: 21-25.
中川九一・白坂信己・遠藤昭三	1951	馬鈴薯に対する銅粉剤の効果並に撒粉方法.	北日本病虫年報 2: 36-37.(講要)
仲川晃生	2012	市販納豆の数種ジャガイモ病害防除効果.	土と微生物 66(2): 92.(講要)
仲川晃生・井上康宏・青木一美・草野謙三・横須賀知之・渡邊 健	2014	ジャガイモ栽培における有機JAS技術に適合した病害防除体系.	植防 68(2): 71-74.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
中村吉秀・一瀬寿幸	2016	春ばれいしょにおける無人ヘリ防除体系への実用化.	九州病虫研報 62: 137. (講要)
新潟農試	1919	馬鈴薯病蟲害防除試験.	病蟲雜 6(6): 469.
新潟農試	1921	馬鈴薯病蟲害防除試験成績.	病蟲雜 8(9): 465-467.
大森秀雄・長谷川 勉・渡部 武	1966	殺虫剤の土壌施用による畑作病害虫の省力防除に関する研究 第1報 PSP-204 およびダイシストン粒剤によるバレイショおよびテンサイの害虫防除効果について.	北日本病虫研報 17: 19.
岡山農試	1913	馬鈴薯病害豫防試験.	岡山農試工程 (大正2).
岡山農試	1915	馬鈴薯病害に関する試験.	岡山農試工程 (大正4,5).
岡山農試	1943	馬鈴薯病害蟲防除要領.	岡山農試時報 317.
坂口 荘一・豊村 順・松原徳行	1982	夏季,ほ場のビニール被覆によるジャガイモそうか病ならびに青枯病発生防止効果.	九州病虫研報 28: 34-36.
佐久間晴彦・波多野広幸・久池井豊・田中桂子・小野田晃治・佐野勝彦・櫻井 禎・沢田治子	2006	C306 新規殺菌剤ライアブルフロアブル(AVF-002)のバレイショ疫病に対する作用特性および圃場試験による省力的防除法の検討.	日本農薬学会講要集 31th: 118. (講要)
佐藤 謙・手塚 治	1967	バレイショのアブラムシに対する土壌施薬の効果について.	北日本病虫研報 18: 11.
島田昌一	1943	馬鈴薯の増産と病害蟲の防除.	秋田農試時報 10: 113.
清水綾乃・長谷 修・石原岳明・柴田大輔・竹中重仁・高橋英樹	2006	生物防除微生物 <i>Pythium oligandrum</i> の卵胞子懸濁液および細胞壁タンパクエリクターを処理したトマト・イネ・ジャガイモにおける遺伝子発現変動の解析.	日植病報 72(4): 268. (講要)
高倉重義・富岡 暢・高桑 亮	1967	土壌施薬剤添加肥料によるバレイショのアブラムシの省力防除について.	北日本病虫研報 18: 14.
高瀬 巖・川野勝彦	1980	背負動力ミスト機での殺虫剤濃厚少量散布によるジャガイモアブラムシ類の防除.	九州病虫研報 26: 182. (講要)
武田礼治	1939	馬鈴薯病蟲害防除上石灰ボルドウ液の生育に及ぼす影響.	秋田県農會報 325号.
田杉平司・田部 真・小林 裕	1952	鈴薯種薯の混湯処理に関する研究.	日植病報 17(1): 46. (講要)
富山農試	1937	馬鈴薯ボルドー液散布日数試験.	富山農試工程(昭和12).
山岸義男・中沢嘉富・柴本 精	1960	ジャガイモに対する農薬散布法の検討.	関東東山病虫年報 7: 26.
山川 勉	1978	北海道における馬鈴しょの除草剤とセンコルの試験成績.	農薬研究 25(2): 39-45.
山川 勉	1979	北海道のバレイショ栽培における除草剤の利用.	農及園 54(7): 875-879.

690 その他

浅川範彦(編)・高木友枝(補)・北里柴三郎(閲)	1899	第二十一表 第二百五圖 普通馬鈴薯菌 培養着色標本.「細菌図譜」(「増訂實習細菌學」附録)	山本重傑, 東京, (ページ付けなし)
浅川範彦	1900	(第二章 第一) 馬鈴薯培養基. (第二編 細菌培養法, 「實習細菌學 總論」増訂 第3版, 北里柴三郎 閲)	山本重傑, 東京, pp.279-284.
藤本 晃	1979	アメリカネナシカズラの生態 - ジャガイモに寄生した場合 -.	雑草研究 24(2): 107-109.
星野(高田)裕子・秋山博子・中島泰弘・山本昭範	2014	N ₂ O発生スポットであるジャガイモ地上部残渣からの糸状菌の分離. (土壌生態系)	土と微生物 68(2): 102-103. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
星野(高田)裕子・秋山博子・中島泰弘・山本昭範	2015	N ₂ O発生スポットであるジャガイモ地上部残渣の糸状菌群集構造.	土と微生物 69(2): 123.(講要)
星野(高田)裕子・上西博英・秋山博子・中島泰弘・山本昭範	2016	ジャガイモ栽培圃場における土壌及び放置残渣の糸状菌相メタゲノム解析.	土と微生物 70(2): 73-74.(講要)
池田成志・染谷信孝・関口博之・谷藤 健・小林有紀・小林 晃・津田昌吾・田宮誠司	2011	有機栽培ジャガイモの根系に共生する細菌群集の構造解析.	土と微生物 65(2): 142.(講要)
仲川晃生・中村吉秀・迎田幸博・菅 康弘・小川哲治・松尾和敏・坂口 荘一・織田 拓・小嶺正敬・福田治男・牟田 勇	1997	ジャガイモ塊茎異常症の発生について.	九州病虫研報 43: 22-28.
西 和文・川瀬章夫・並木史郎・中村吉秀・仲川晃生	1997	ジャガイモ塊茎異常症の種いも伝染.	九州病虫研報 43: 29-30.
西山幸司・富永時任	1974	イネ科牧草のかさ枯病菌に関する研究—病原細菌の病原力とジャガイモ生組織に対する生理活性作用について—.	日植病報 40(3): 201.(講要)
金澤 恵・石川美友紀・三星暢公・紀岡雄三・野口勝憲・福吉賢三・富濱 毅・白尾 吏・森清文・岡崎和之・池田成志	2016	ジャガイモ根圏からの共生微生物の分離及び小規模室内実験系を中心とした有用微生物候補菌株の選抜.	土と微生物 70(2): 64.(講要)
関口博之・染谷信孝・土田勝一・浅野目 謙之・森 一幸・池田成志	2014	ジャガイモから分離した共生細菌の圃場における接種効果.	土と微生物 68(1): 38.(講要)
清水マスヨ・長岡一成・橋本知義・福吉賢三・小川哲治・菅 康弘	2014	複数のジャガイモ栽培体系における土壌微生物群集構造と土壌の化学性および土壌病害の発生程度の関係性.(土壌生態系)	土と微生物 68(2): 100.(講要)
清水基滋	2013	北海道畑作地帯の農産物加工場で発生する排出土およびジャガイモでん粉粕の消毒.	植防 67(11): 602-606.
白井光太郎	1887	馬鈴薯病院.	植物学雑誌 1(2): 3-9.
染谷信孝・諸星知広・池田 宰・土屋健一・池田成志	2011	ジャガイモから分離した蛍光性シュードモナス菌株の多様性.	土と微生物 65(2): 146.(講要)
染谷信孝・海野佑介・信濃卓郎・津田昌吾・池田成志・関口博之	2014	ジャガイモ根関連細菌の培養解析.	土と微生物 68(1): 38.(講要)
染谷信孝・海野佑介・諸星知広・窪田昌春	2016	(P-218) ジャガイモ葉から分離された <i>Methylobacterium</i> 属細菌の多様性.	日本微生物生態学会第31回横須賀大会, p.295.(web only)
田淵浩康・内藤智子・小杉明子・仁王 以智夫	2000	栽培管理の異なるジャガイモの根部に生息する微生物相の特徴.	土と微生物 54(1): 41-49.
山下修一・土居養二・与良 清	1974	ムギ類立枯病菌ならびにジャガイモ炭疽病菌に見出された球形ウイルスについて.	日植病報 40(3): 214.(講要)